

二つとない、をつくる。



FUJI OIL CSR REPORT 2011



二つとない、をつくる。 不二製油

『二つとない、をつくる。』それは、社名の「不二」から生まれた言葉。

私たち不二製油が2010年10月9日、創業60周年にはじめて掲げたコーポレートメッセージです。

油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白の事業領域において、

私たちはつねに「人マネをしない」という創業の精神を大切に、お客様と共に製品開発に挑んできました。

二つとない技術・経験・発想の先に、二つとない製品や提案が生まれ、

さらにその先に、お客様との感動、笑顔、喜びが広がっていく。

そんな不二製油のあり方を凝縮したのが、『二つとない、をつくる。』というメッセージ。

これまで60年にわたって築いてきた技術と製品に対する自負。

そして、これから先も、二つとない製品を通じて、皆さまのお役に立っていききたい、という決意。

二つの思いを、この言葉にこめました。

それは、社員ひとりひとりの志をあらわすと同時に、不二製油が企業として社会と交わす約束の言葉でもあるのです。

不二製油グループ事業概要

■ 会社概要 (2011年3月31日現在)

商 号：不二製油株式会社

本 社 所 在 地：大阪府泉佐野市住吉町 1 番地

設 立：1950 年 (昭和 25 年) 10 月 9 日

資 本 金：13,208 百万円

代 表 者：代表取締役社長 海老原 善隆

従 業 員 数：単体 1,117 名 連結 3,574 名

子会社・関連会社：連結子会社 29 社 持分法適用関連会社 2 社

■ 事業内容 (主な製品区分)

■ 油脂事業

チョコレート用油脂
製菓用油脂
冷菓用油脂
フライ用油脂
クリーム用油脂
乳化油脂／粉末油脂
潤滑・離型油

■ 製菓・製パン素材事業

チョコレート
カラーチョコレート
製パン用チョコレート
アイスコーティング用チョコレート

乳化・発酵食品
クリーム／マーガリン
フィリング／チーズ素材

■ 食品素材輸入

粉乳調製品／冷凍生地／調理用素材

■ 大豆たん白事業

大豆たん白素材
粉末状大豆たん白／粒状大豆たん白

■ 大豆たん白機能剤

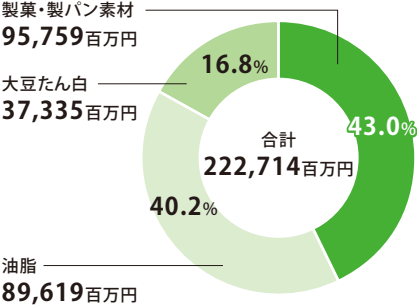
水溶性大豆多糖類
大豆ペプチド／大豆β-コングリシニン

■ 大豆たん白食品

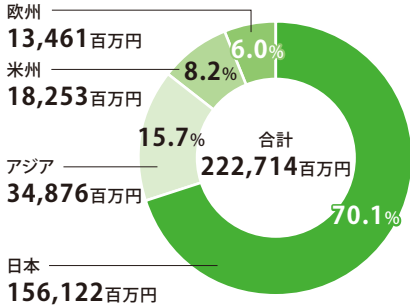
■ 豆乳

業務用豆乳／小売用豆乳製品

事業別売上高構成比

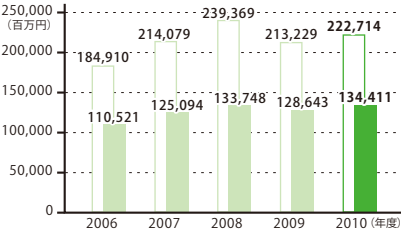


グローバル拠点・売上高の地域別構成比

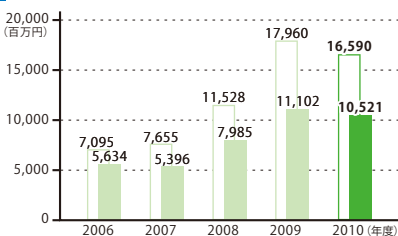


主な経営指標

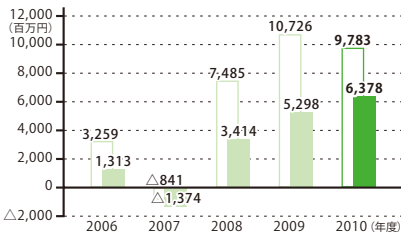
■ 売上高



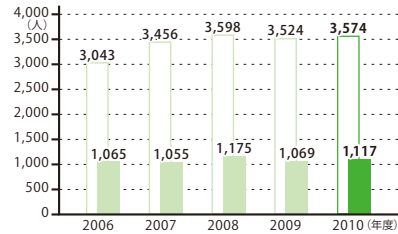
■ 営業利益



■ 当期純利益



■ 従業員数



INDEX

- 03 不二製油グループ事業概要
- 04 不二製油グループ製品の主な用途
- 06 トップメッセージ
- 08 不二製油のCSR

特集

- 12 不二製油のパーム事業
- 16 不二製油の大豆事業

2010年活動報告

「食の創造」に関する取り組み

- 21 お客様への責任
- 22 高級チョコレートがお客様の手に届くまで
- 「人権・人材」に関する取り組み
- 25 従業員への責任

「環境」に関する取り組み

- 30 環境ビジョン・方針
- 31 環境マネジメント／目標と実績
- 32 環境負荷低減への取り組み
- 35 環境会計
- 36 海外グループ会社の2010年度環境データ

「社会貢献」に関する取り組み

- 37 地域社会とともに
- 「CSR基盤」に関する取り組み
- 39 お取引先への責任
- 40 株主・投資家とともに
- 41 コーポレート・ガバナンス
- 42 コンプライアンスの推進
- 43 リスクマネジメントの強化

- 44 第三者意見
- 45 「不二製油CSRレポート2010」アンケート集計結果
- 45 編集後記

編集方針

CSRレポート2011では、当社のCSRに対する取り組みをより深くご理解いただくため、CSRビジョン・活動方針、運営体制およびCSR中期的課題を示し、CSR課題に対する本業を通じた取り組みを記載しています。

本年度はグローバルで持続的な成長に取り組む食品素材メーカーとして「パーム」と「大豆」の特集ページを加えました。正確かつ網羅性の高い情報を提供するとともに、読みやすさを重視した報告に努めました。また、第三者意見も初めて掲載しています。

対象期間

2010年度 (2010年4月1日～2011年3月31日)の実績です。活動や取り組み内容は一部に過去および直近のものも含みます。

対象範囲

不二製油 (株) 単体の活動を中心に掲載しています。環境データについては、国内グループ会社 (生産拠点) のトーラク (株)、フジフレッシュフーズ (株)、(株)エフアンドエフを含みます。上記以外を対象とする場合は、データとともに集計範囲を記載しています。

発行

2011年9月 (次回発行予定は2012年9月)

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン (2007年版)」
GRI (Global Reporting Initiative)
「サステナビリティレポートガイドライン2006」

不二製油グループ製品の主な用途

不二製油グループの素材・製品は食生活のさまざまなシーンでご利用いただいています。



油脂加工食品

油脂

- 1 チョコレート用油脂
カカオバターを超えた機能をもつ
- 2 冷菓用油脂
アイスクリームのおいしさをつくる
- 3 フライ・スプレー用油脂
即席麺、揚げ菓子のフライ、調理用で使用
- 4 クリーム用油脂
ホイップクリーム、コーヒークリームなどに使用
- 5 潤滑・離型油
食品機械の潤滑や食品の離型機能をもつ

チョコレート

- 6 チョコレート
世界各地の厳選されたカカオ豆を使用したチョコレート
- 7 洋生チョコレート
洋菓子やパンにかけ、簡単にツヤを出すチョコレート
- 8 成型チョコレート
生地と一緒に焼いても型が残るチョコレート
- 9 アイスコーティング用チョコレート
アイス用のコーティングチョコレート

乳化・発酵食品

- 10 ホイップクリーム
豊かな乳風味とスッパリした後味を生み出す植物性クリーム
- 11 ソフトクリーム
まろやかな口当たりのソフトクリーム用液状ミックス
- 12 カスタードクリーム
乳味と卵風味が豊かなクリーム
- 13 マーガリン・ショートニング
焼き菓子のサクサクとした食感を引き出す
- 14 発酵風味素材
乳化発酵技術を駆使してつくったデザート用素材

油脂加工食品

食品素材

- 15 ベンチャメルソース
乳製品を高配合したホワイトソース
- 16 冷凍生地
パイ生地、クッキーシートとして使用

たん白加工食品

大豆たん白素材

- 17 粉末状大豆たん白
ゲル化力、保水力をもち、食感を改良する特性をもつ
- 18 粒状大豆たん白
ジューシーで肉粒感に富み、保水性に優れた機能をもつ

大豆たん白機能剤

- 19 大豆ペプチド
必須アミノ酸を豊富に含み、吸収性に富む素材
- 20 水溶性大豆多糖類
酸性乳飲料の安定剤や麺・米飯の結着防止剤に使用

大豆たん白食品

- 21 味付け乾燥あげ
即席麺のあげ等々に使用
- 22 がんも
湯通しの手間もいらず、煮くずれしない
- 23 冷凍とうふ
冷凍保存がきき、必要な分だけ利用できる

豆乳

- 24 業務用豆乳
大豆の青臭みを取り除いた豆乳

最終製品

- 25 豆乳
特保調整豆乳
- 26 プリン
神戸プリン
- 27 サプリメント
通販イソフラバランス
- 28 スポーツドリンク
通販ペプチドアスリエータ

「二つとない」価値を提供し、 食の素材メーカーとして持続可能な社会づくりに貢献します。



不二製油株式会社
代表取締役社長

海老原善隆

この度の東日本大震災にて被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。被災者の皆様の安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

不二製油グループは、2011-13年度の新中期経営計画をスタートしましたが、大震災はまさにその議論の真っ只中で起きました。不二製油の企業理念は『「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献する。』ですが、その「健康で豊かな生活」が一瞬にして失われた時、不二製油はどのようにして「健康で豊かな生活」に貢献できるのか、被災された人々や地域に貢献できることは何なのか—これらを深く考え、不二製油グループは社会的責任を果たさねばならないと強く感じています。

サステナブルであることを強く意識する

この未曾有の災害に直面し、企業の存在意義が問われる今、不二製油の行動はいろいろな意味でサステナブル(持続可能)でなければなりません。

不二製油は、製品・サービスを通じて、「健康」や「豊かさ」に貢献できる持続可能な事業を大事にしていきたいと考えています。不二製油が事業展開を進める大豆たん白を含めた植物性たん白は、動物性たん白に比べ自然にやさしくエネルギー効率に優れていると言われてます。近年、新興国の著しい経済発展により資源の大量消費が始まっている上に、世界の食糧状況においては、飢餓人口が10億人とも言われています。地球のサステナビリティ実現には、当社が長年研究している大豆や大豆たん白をさらにおい

しく食べられる素材開発、利用開発は、必ずやこれらの課題解決に貢献できるものと信じています。

20世紀終盤にIT技術が人々の暮らしに多くの利益をもたらしたように、21世紀は資源の適切な活用、省資源、廃棄やムダの排除など、サステナビリティに関わる課題に取り組み、解決策を見出した企業により大きな成長が可能となるでしょう。

国連が示したサステナビリティの定義は、「未来世代のニーズを満たす能力を妨げることなく、現在のニーズを満たすこと」。不二製油も、現在のみならず将来の世代が十分に力を発揮できるような持続可能な取り組みを推進していきたいと考えます。

新中期経営計画がスタート

新中期経営計画は、10年ビジョン「ニッチ、スペシャル、グローバルに健康と美味しさを提供し、世界のお客様に認めて頂く、食の素材メーカーを目指す」の第2ステップであり、「進化の3年間」と位置づけています。FUJI WAYをグループ全体でしっかり共有し、その理念を実践することが基本方針の根本になります。3つの基本方針は次の通りです。

1. グローバル経営の推進

グローバル経営では「質の国内」「量の海外」を掲げ、カンパニー資源の海外への投入、グローバル人材の育成を図ります。「質の国内」では付加価値化と顧客関係力でシェアの維持・拡大を図り、「量の海外」では拡大する世界市場にグループ力を結集し、成長を促進します。

2. 技術経営の推進

技術、素材、ソフト提案力の協奏を生む生産・販売を含めた組織の総合力が、不二製油の技術経営と言えます。その原動力が新素材であり、新素材を生み出すためにコア事業の深掘り、顧客関係力や研究開発推進力の強化を基本施策とします。

3. サステナブル経営の推進

不二製油のサステナブル経営では、CSRと環境配慮型経営の推進を図ります。企業理念を実現することで、持続可能な社会に貢献し「二つとない、をつくる。不二製油」を目指します。

不二製油らしいCSR経営を

昨年、コーポレートメッセージ「二つとない、をつくる。不二製油」を制定しました。限られた地球資源の中で、自然や社会と共生し、ステークホルダーの皆様々に「二つとない」価値を提供することをCSRの基本とし、本格的にCSR活動を開始しています。今年度は新中期経営計画をスタートさせ、CSRの中期的課題（P10-11）への取り組みを強化することで、サステナブル経営への推進を図ります。

今後も、不二製油グループは、食の素材メーカーとして社会からの期待にお応えするとともに、多くの方々とのコミュニケーションを通じて、持続可能な社会づくりに向けた取り組みを進め、「二つとない、をつくる。不二製油」の実現を目指していきます。

FUJI WAY

企業理念

「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。

コーポレートメッセージ

二つとない、をつくる。不二製油

経営理念

□経営の前提

安全・品質・環境を最優先する。

□経営基本方針

顧客への貢献を果し不断の発展を図る

創造の精神をもって常に革新に挑む

自己啓発を熾んにし人格の向上を目指す

不二製油グループの10年ビジョン

10年後の目指す姿

ニッチ、スペシャル、グローバルに健康と美味しさを提供し、世界のお客様に認めて頂く、食の素材メーカー。

08-10 中計	11-13 中計	14-17 中計
第1ステップ 「革進・実行 2010」 「経営構造改革の3年間」 コア事業に集中 事業基盤を強化	第2ステップ 「Global&Quality 2013」(進化I) グローバルに、 質的成長に向けての 「進化の3年間」	第3ステップ 進化II ビジョンの実現 に向けての 「飛翔の4年間」

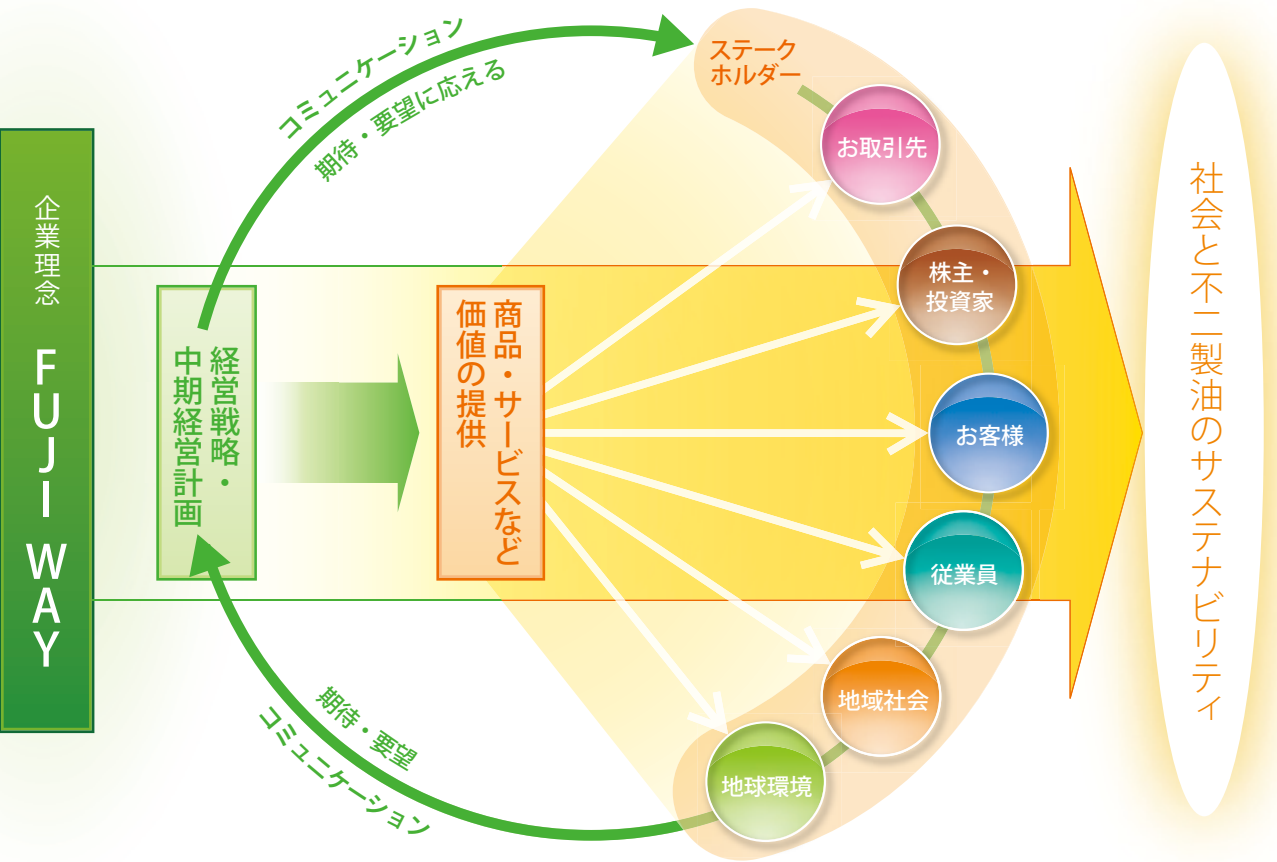
基本方針

世界の競争で
勝ち残る規模と
収益、価値を
確保する。



不二製油のCSRの考え方

企業理念を具現化し、本業を通して社会の課題解決に貢献することが、不二製油のCSRであると考えています。
「CSRは経営そのものである」という考えのもと、ステークホルダーの期待や要望に応え、常に新しい価値を提供し、課題解決に貢献することで社会と不二製油双方の持続的な発展を目指しています。



CSR推進体制

不二製油は、CSR経営のより一層の推進を図るため、2011年5月CSR推進委員会を新設いたしました。同委員会は社長を委員長とし、積極的なCSR経営のあり方について議論しています。CSR活動方針、計画を策定するとともに進捗状況についてモニタリングを行う予定です。

CSR 推進体制図



不二製油グループ「CSRビジョン」と「CSR活動方針」

2011年、新たに「CSRビジョン」と「CSR活動方針」を下記の通り策定し、CSRの目指す方向、考え方を明確にしています。

CSRビジョン

不二製油グループのCSRビジョンは、
企業理念『食』の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。』を実現することです。
「人マネをしない」という創業の精神を胸に、食品素材メーカーとして価値ある製品・サービスを提供し、
社会の皆様から信頼され、期待される「二つとない、をつくる。不二製油」を目指します。

CSR活動方針

I.「食の創造」に関する取り組み

- 1.価値の創造
「企業理念」実現の柱として、油脂と大豆たん白を中心とした新たな食品素材の開発に取り組み、世界のお客様の期待に応えるものづくりを通じて、健康や美味しさなどの新しい価値を提供します。
- 2.食の安全・安心・品質
お客様に安心と満足をお届けするために、徹底した安全性の確保と品質の向上に努めます。
- 3.持続可能な調達
持続可能な食資源の研究開発を行うとともに、自然環境との調和と安定供給を実現するサプライチェーンも含めた持続可能な原材料調達に努めます。

II.「人権・人材」に関する取り組み

- 1.人権
グローバルに事業を展開する企業として、グループ内にとどまらずサプライチェーンも含めた基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。
- 2.人材
不二製油グループ発展の基盤は人材です。多様な価値観をもった従業員がイキイキと能力を発揮できる効率的で安全な職場環境を整備します。従業員一人ひとりの成長を支援し、企業理念の実現に貢献できる人材を育成します。

III.「環境」に関する取り組み

環境経営を推進する企業グループとして、原料・水・エネルギーの効率的な利用、地球温暖化防止、廃棄物の削減、生物多様性に配慮した原料調達などに努め、事業活動と環境の調和を図ります。

IV.「社会貢献」に関する取り組み

不二製油グループは、企業理念の「食」「健康」「豊かさ」に関する社会貢献活動をグローバルに展開していきます。また、良き企業市民として、地域社会とのコミュニケーションを図り、より良い社会作りに貢献します。

V.「CSR基盤」に関する取り組み

- 1.企業理念の浸透とグループCSRマネジメント
グループ全体に「FUJI WAY」の浸透を図るとともに、グローバルな視点でCSRマネジメントを推進できる体制を整備・運用し、更なる改善に努めます。
- 2.コンプライアンスとリスクマネジメント
透明性の高い健全な経営を実現し、信頼される企業であり続けるためにコンプライアンスを推進するとともに、持続可能な事業活動の推進のため、リスクマネジメントを強化します。
- 3.ステークホルダーとのコミュニケーション
事業に関わるすべてのステークホルダーと誠実な対話をおこない、その期待に応えることで、信頼関係を構築するとともに、得られた知見をCSR活動に活かします。
- 4.CSRサプライチェーンマネジメント
取引先との公正で公平な取引を徹底し、取引先との連携を深め、CSR調達を推進します。

不二製油のCSR課題と取り組み

当社が目指すサステナブル経営実現のため、全社的な取り組みと活動計画をCSR活動方針に沿って示しています。

分野		重点テーマ	中期的課題	2011年の活動計画
食の創造	価値の創造	食の課題解決	安全・安心、健康を意識した製品の新技术、新製品開発	・消費者を意識した安全・安心な技術開発の推進 ・高齢者向けの健康でおいしい製品開発
			大豆事業の価値の創造による、栄養健康市場の開拓、大豆主体食品による新展開の実施	・高齢者・幼児を意識した製品開発の推進 ・消費者を意識した大豆主体食品の推進
	安全・安心・品質	品質事故重大クレームゼロ	不二製油グループの危害分析技術の向上	・想定外物質分析技術の構築 ・微量金属分析、微生物迅速分析技術の確立
	持続可能な調達	持続可能な安定調達	調達先との関係強化 地震等の自然災害も考慮した安定調達のためのサプライチェーンの構築	・原料サプライヤーとの関係維持・強化 ・現状サプライチェーンの見直し
		環境に配慮した原料調達	RSPO※1サプライチェーン確立	・サプライチェーン認証の情報収集、認証取得農園との関係づくり
人権・人材	人権	人権課題の把握	グローバルベースの人権課題の把握 サプライチェーンでの人権配慮の推進	・事業活動と人権課題の関係性調査 ・主要サプライヤーの人権配慮調査の検討
		人権意識の向上 人権に配慮した労務管理	従業員の人権意識の向上 人権に配慮したグループ労務管理の推進	・人権啓発施策の検討 ・海外グループ会社の人権・労働現状調査
	人材	人材育成の強化	社内研修やキャリア形成支援の充実	・管理職研修の充実 ・キャリアプラン策定支援
		グローバル人材育成	グローバルに活躍できる人材の創出、海外勤務者に対する各種体制の整備	・海外人材育成プログラムの検討・実施
		ダイバーシティの推進	多様性を尊重する組織風土の醸成	・外国籍社員の採用 ・定年再雇用規定の見直し ・女性の活躍の場の拡大
		ワークライフバランス推進	ワークライフバランスを支援する体制づくりの推進	・労使による仕事の効率化推進 ・多様な働き方の支援制度検討 ・特定事由退職者再雇用制度の導入
		労働災害、事故の防止	リスクアセスメント 安全横展開ネットワークの構築	・全事業所での導入定着 ・海外情報収集と定期パトロールの実施
		健康な職場づくり	メンタルヘルス該当者の復職サポート 健康診断受診率向上と受診後の的確なフォロー	・国内グループ会社でのカウンセリング窓口の確保 ・国内グループ会社との連携

※1 RSPO：Roundtable on Sustainable Palm Oilの略。持続可能なパーム油のための円卓会議

分野		重点テーマ	中期的課題	2011年の活動計画
環境		地球温暖化防止	CO ₂ 排出量:2020年 20%低減(基準年対比) ^{※2} 環境にやさしい物流改革の推進 省エネルギー技術の導入	・国内 2011年度 2,500kℓ／年の達成 ・ソフトタンク導入とモーダルシフト拡大 ・省エネ技術導入:目標 2,190kℓ／年
		水資源の保全	2020年 20%低減(基準年対比) ^{※2}	・国内 2011年度 省給水・排水量 30千㎡の達成
		資源リサイクル (廃棄物の削減)	再資源化率99.8% 2013年達成	・再資源化の推進 再資源化率99.70%以上の達成 ・廃棄物の削減
		地球緑化、 生物多様性保全	生物多様性の活動方針の策定と 取り組み推進	・緑化活動継続と他事業所への展開 ・事業活動と生物多様性の関係性調査 ・生物多様性に関する重点課題と 取り組み方針の決定
社会貢献		社会貢献活動の 組織的推進	社会貢献方針に基づく 国内外での貢献活動の展開	・社会貢献方針の策定と推進体制の整備
CSR基盤	コーポレート・ ガバナンス	経営の透明性向上	ステークホルダーの要請に応える より高い透明性と健全性に資する コーポレート・ガバナンスの推進	・役員退職慰労金制度の見直し
	CSR マネジメント	不二製油グループへの 理念浸透	「FUJI WAY」の浸透	・「FUJI WAY」社長と語る会の全国実施 ・「FUJI WAY」浸透ツールの作成
		CSRの浸透	CSR啓発活動の推進	・部門研修でのCSR研修の順次実施 ・CSRレポートのグループ社員への配布 ・イントラネット「CSR便り」継続発信
		CSR推進体制 整備と運用	CSR推進体制の構築とCSR活動の活性化 CSRビジョン・活動方針の策定と CSRマネジメントシステムの整備	・CSR推進委員会の発足と継続的開催 ・第三者ダイアログの実施 ・CSRビジョン、CSR活動方針の策定 ・活動計画の進捗状況の確認
	コンプライ アンス	コンプラ意識向上と グループ会社展開	コンプライアンス推進体制の 再構築と活動の徹底 グローバルコンプライアンスの確立	・グローバル行動規範の策定 ・国内・海外グループ会社 コンプライアンス対応状況の調査
	リスク マネジメント	リスクマネジメント の強化	リスクマネジメント再構築 BCM ^{※3} の全社的推進	・グループリスク情報の収集と把握 ・地震安全対策BCP ^{※4} の策定
	CSRサプライ チェーン マネジメント	CSR調達マネジメント	CSR調達の取り組み強化	・サプライチェーンCSR調達のガイドラインの策定

※2 基準年:03-05年平均値

※3 BCM：Business Continuity Managementの略。リスクの発生によって生じる事業の中断に対し、事業の継続を確保する経営管理手法

※4 BCP：Business Continuity Planの略。平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画

パーム油のメリットを活かし 持続的な利用を促進 ～不二製油のパーム事業

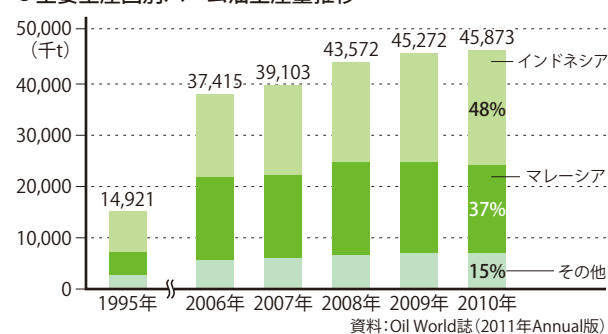
世界中で一番多く生産・消費されている油、パーム油。一年を通じて収穫でき、熱や酸化に強く、幅広い用途に利用できることから大変、重宝されています。不二製油は、国内最大のパーム油取扱メーカーとして、パーム油の可能性を追求するとともに、持続可能なパーム油の生産に寄与したいと考えています。

パームを知ろう

パームは、アブラヤシとも呼ばれるアフリカ西部熱帯地方が原産のヤシ科の植物で、現在はマレーシアやインドネシアを中心にプランテーションで広く栽培されています。

パームの実の中の果肉の部分からは、パルミチン酸^{※1}とオレイン酸^{※2}が主体の「パーム油」が、核の部分からはラウリン酸^{※3}を主体としたヤシ油と似た組成を持つ「パーム核油」が得られます。一つの植物からまったく異なる2種類の油脂が得られるという意味でもパームは極めて珍しい植物といえます。

●主要生産国別パーム油生産量推移

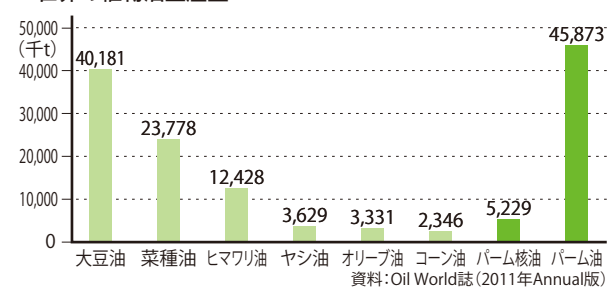


世界一の生産量を誇るパーム油

パーム油は現在、世界で最も多く生産・消費されている油脂です。日本でも昨年は、大豆油を抜き菜種油についで多く消費されています。

パーム油の単位面積当たりの生産効率は大豆油の10倍以上とされています。大豆や菜種などの単年性

●世界の植物油生産量

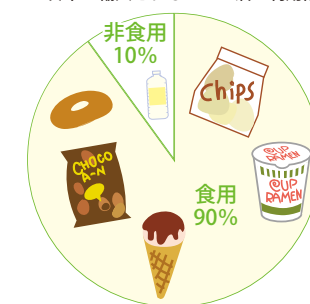


植物とは異なり、多年性植物で通年収穫できることが、世界で最も多く生産されるゆえんです。

私たちの身近にあるパーム油

パーム油が私たちの生活の中でどのように使われているかご存知ですか。日本で消費されているパーム油の90%は食用です。さまざまな加工によって、フライ・スプレー用油脂、マーガリン・ショートニング用油脂、チョコレート用油脂など非常に多くの用途で使用されています。

●日本に輸入されるパーム油の利用割合



パーム油の特長

パーム油は、熱や酸素による劣化に対して非常に強く、フライ製品や長期流通製品等に特に適しています。また、パーム油は固形脂ですが、分別^{※4}などの加工によりさまざまな用途で利用できます。

特に近年、トランス脂肪酸^{※5}の健康上の問題が指摘

されるようになってから、非トランス脂肪酸油脂として世界中で需要が高まっています。

- ※1 パルミチン酸: 炭素鎖16の飽和脂肪酸
- ※2 オレイン酸: 炭素鎖18の一価不飽和脂肪酸
- ※3 ラウリン酸: 炭素鎖12の飽和脂肪酸
- ※4 分別: 油脂を融点によって分ける技術
- ※5 トランス脂肪酸: 食用油を高温で処理、また水素を加えて固まりやすくする時に生じる不飽和脂肪酸

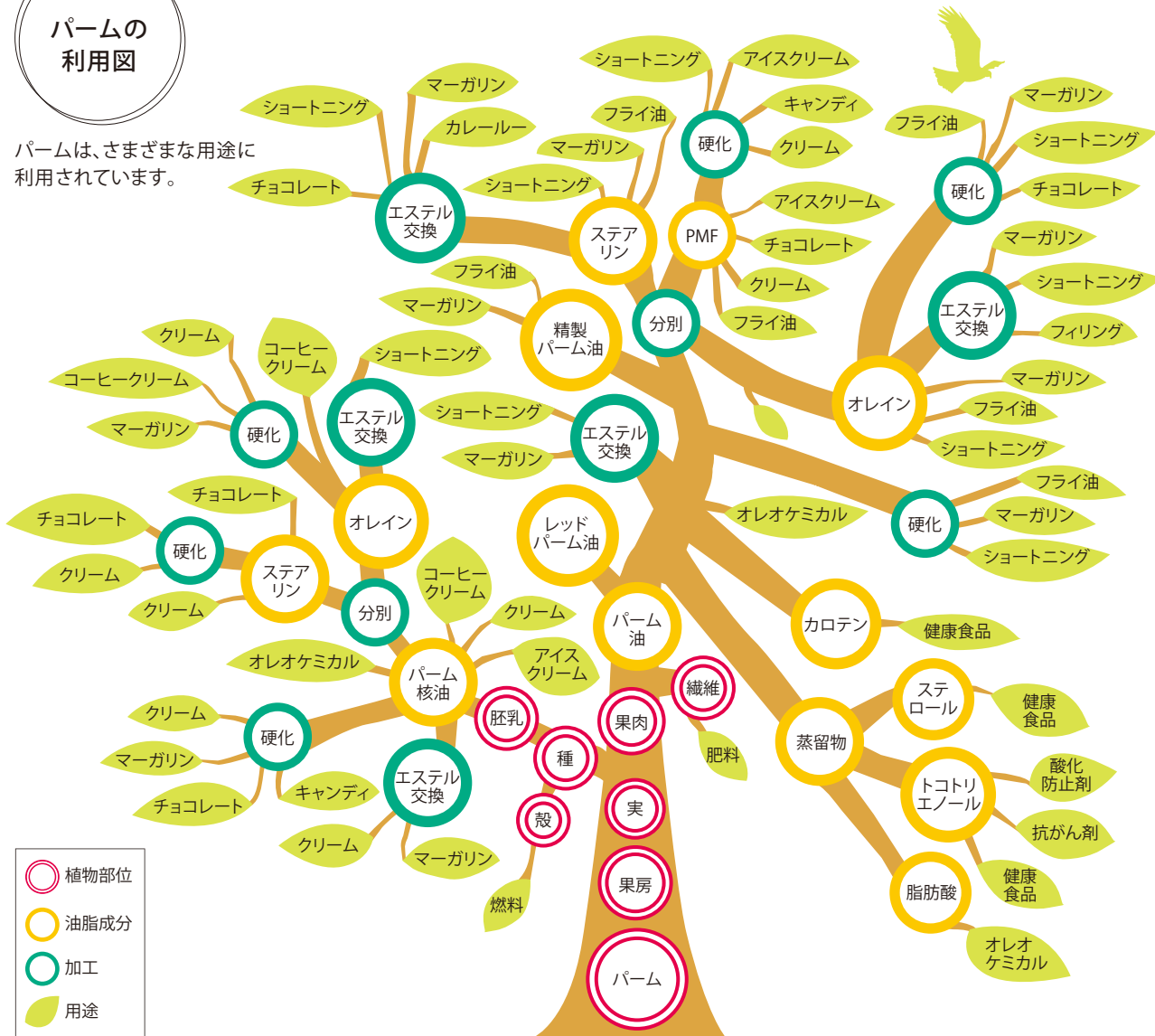
不二製油はパーム油のリーディングカンパニー

不二製油とパーム油・パーム核油との関わりは古く、1954年パーム核を輸入し、搾油を行って以来、現在も日本で最大の取扱量を誇っています。また、不二製油の基盤である油脂加工技術（分別技術・エステル交換技術など）と組み合わせることで多くの用途で利用されるようになり、パーム油・パーム核油の日本での市場拡大に貢献してきました。

また、最近の研究で体に良いことが確認されている^{ベータ}カロチンやトコトリエノールといった天然の抗酸化成分を多く含んでいることから、今後、さらにパーム油の活用が期待されています。

パームの利用図

パームは、さまざまな用途に
利用されています。



不二製油
油脂事業のあゆみ

南方系油脂に取り組む

不二製油は油脂業界の後発メーカーとして、1950年に設立されました。当時の主な油脂原料である「菜種」や「大豆」は後発メーカーには入手し難く、厳しい経営状況が続きました。その打開策として大阪大学の上野誠一教授や菊池土用三氏の「南方にコブラがある。ヤシ油を目指せ」の助言をもとに、「硬くて使い難い」南方系油脂原料を取り扱うようになります。国内初となるコブラの圧搾抽出方式を確立し、搾油に成功。ヤシ油は洗剤など、まず食用以外の用途で市場に受け入れられていきます。

分別技術での発展

次にパーム核油に着目し、チョコレート用油脂の製品化を目指して「溶剤分別結晶装置」を完成し、1956年ラウリン系チョコレート用油脂を発売するに至ります。その後、アフリカ西部に育つシアナッツを原料とするチョコレート用油脂を製品化。ファットブルーム耐性などの機能を備え、国内外の市場を開拓していきました。

現在も、油脂原料の探索、酵素エステル交換などの新技術や分別技術によって、新しい機能を持つ油脂を開発し続けています。



チョコレート用油脂

環境との調和を目指して

パームについては、一部地域で生物多様性問題などが指摘されています。

RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil：持続可能なパーム油のための円卓会議)は、「パーム油の供給関係者の協調とステークホルダーとの対話により持続的なパーム油の成長と消費を促進する」との目的のもと、2004年4月に設立されました。

不二製油グループでは、地球環境・生物多様性に配慮し、パーム油を将来にわたって長く使用するため、2004年にRSPOに正会員として加盟しました。パーム油生産国の環境問題・地域社会への影響を認識し、さらに持続可能なパーム油生産の運営に協力していきます。



2010年度RSPO総会



2010年度RSPO総会

パームの将来に向けて

2011年7月、不二製油とBPPT(インドネシア技術評価応用庁)の間でパームの改良研究に関する共同研究の覚書(MOU)が締結されました。BPPTは、パーム油の世界最大の生産国であるインドネシアの研究技術省傘下の公的研究機関です。この共同研究によりパーム油の生産効率の向上など、現地のパーム油産業に貢献していきます。



2011年7月7日 調印式にて



2011年7月7日 調印式にて

voice・BPPT とのパームに関する共同研究について

不二製油は大豆と同様、パームとも過去から深く関わっており、パームに対する愛・思い入れは、大変大きなものがあります。今回のBPPTとの共同研究は、パームに育てられた不二製油からの恩返しという思いで取り組みます。限りある熱帯雨林で栽培されるパームの生産効率を上げることは、将来の人口増加に伴う食糧危機に備えるものです。結果を出すにはまだ時間を要するでしょうが、将来を見据え活動していきます。



取締役研究本部長
小林 誠



取締役研究本部長
小林 誠

原料の安定調達のために

不二製油は国内最大のパーム油取扱メーカーとして、早くからマレーシア(ジョホール州)に精製会社を設立、高品質原料の調達を進めてきました。現在では、東マレーシアやインドネシアにも供給先を拡大するとともに、一部特殊な原料については長期購買契約を行うことにより、安定した原料調達を推進しています。

新規購入先については技術者同行で工場視察を行い、安全性を十分確認した上で購買を行っています。2010年から南方系油脂専任の駐在員がシンガポールに駐在し、既存購入先との関係維持・強化とともに新規購入先の開拓を進めています。



お取引先と駐在員の工場視察

グローバルでの取り組み

海外技術交流会議の開催

不二製油グループでは、油脂関係の海外グループ会社の研究開発部門と営業部門が一同に会した国際会議を開催しています。

本年度は、アメリカのフジベジタブルオイル社（ジョージア州サバンナ）にて開催され、6カ国から19名が参加しました。

研究開発部門の会議では、各社の市場状況、新製品・新技術の紹介、今後の研究開発テーマの設定などグローバル視点での研究開発の議論が行われました。

営業部門の会議では、市場状況、顧客状況、原料状況の情報交換とともに、今後の戦略について議論されました。

これらの会議は世界規模での課題を直接話し合う場であり、今年はパーム油の認証問題なども話し合われました。



海外技術交流会議のメンバー

ヘルシーでサステナブルな 大豆の可能性を追求 ～不二製油の大豆事業

日本人には昔からなじみ深い食品、大豆——。
海外でも日本食ブームとともに、熱い視線が注がれています。
また、地球環境の面からも、食肉に比べて良質なたん白質でありながら、
環境負荷も低いことが注目を集めています。
不二製油では、半世紀以上にわたり、大豆の可能性を追求し続けています。

人と地球にやさしい大豆

大豆と日本人との深い関係

世界一の長寿国になった日本。その理由の一つが、米飯を中心に、魚や大豆から必要なたん白質を取り入れる日本型の伝統的な食文化にあると言われています。

日常の食生活で、豆腐、納豆、油揚げなどは、日本人にとってなじみ深い食品であり、大豆を原料とする発酵食品の味噌、醤油などは日本食の味の決め手として大切にされてきました。

このように、大豆が古くから日本人の食生活に活用されてきた理由の一つに、良質のたん白質を多く含んでいることが挙げられます。たん白質を構成するアミノ酸は、人体の細胞、ホルモンなどの合成に欠かせませんが、大豆は体内で合成できない9種類の必須アミノ酸をバランスよく含んでいます。

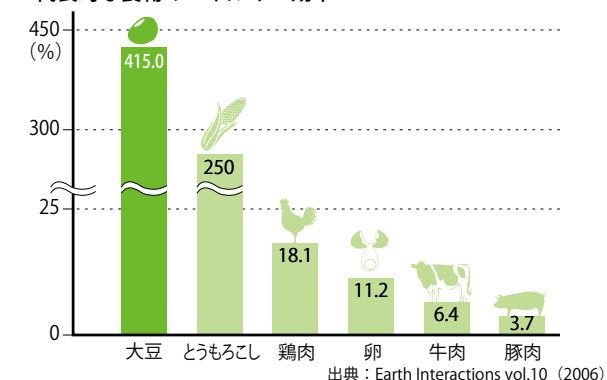
また、大豆たん白はコレステロールを低下させる働きを持ち、イソフラボン、サポニンなどの生理活性物質も共存していることが長年の研究で明らかになってきました。

地球環境にやさしい大豆

さらに、大豆は地球環境の面でも優れた食糧資源であると言えます。急激な経済発展をとげる中国、インドなどでは食肉消費量が増大し、穀物飼料も不足すると言われています。例えば、牛肉1kgを作るのには約12kgの飼料穀物が必要です。特にエネルギー効率*を見ると、大豆は他の食物と比べ非常に高く、より優れているとの結果が出ています。

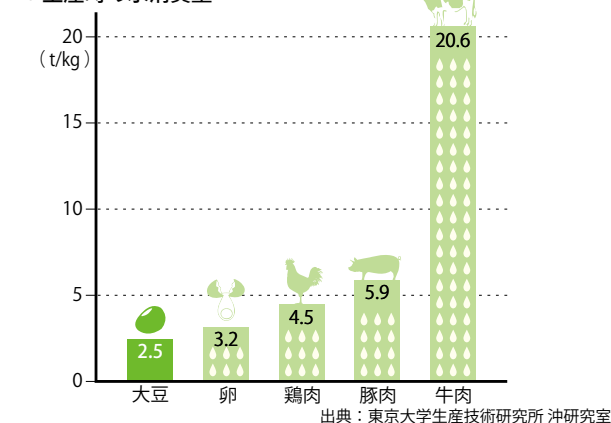
※エネルギー効率：投下エネルギーに対する回収エネルギーの比率

●代表的な食物のエネルギー効率



これに加え、人口増大に伴い水不足も深刻な問題になってきています。限りあるこの水資源も有効に利用しなければなりません。例えば牛肉1kgを生産するためには20.6tの水が必要ですが、大豆1kgでは2.5tで生産が可能となります。

●生産時の水消費量



このように大豆には多くの可能性が秘められており、世界中から注目される食糧資源の一つとなっています。

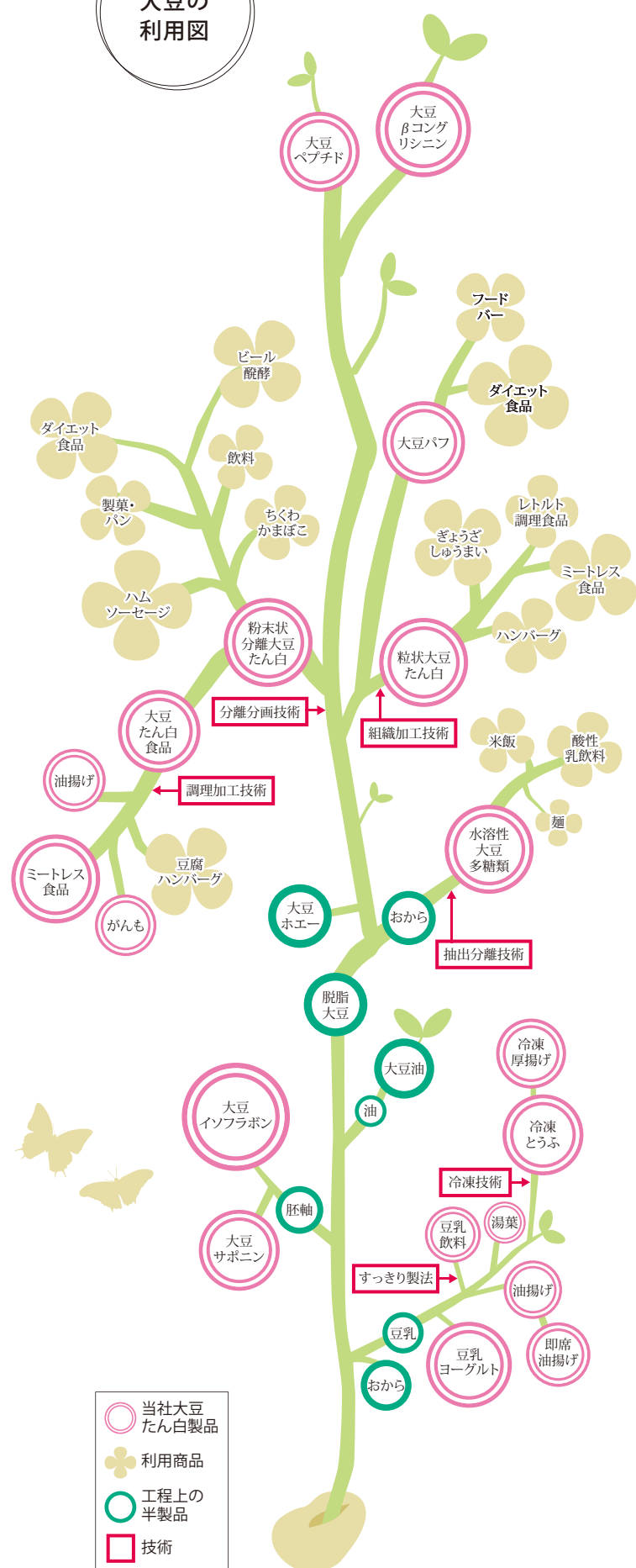
不二製油大豆たん白事業のあゆみ

大豆たん白事業のスタート

不二製油は創立初期から、大豆を扱う場合はたん白質を豊富に含む脱脂大豆を事業の中心にするという方針を持っていました。大豆を油にすることだけでは処理量の違いによりコスト面で既に大規模に製油事業を行っている先行企業に勝てないと考えたからです。

脱脂大豆の研究開発は1957年から始まり、大豆の輸入が自由化された1961年から不二製油も大豆にこだわり、醸造用や豆腐・油揚げ用等の製品を順次発売しました。しかし、事業として当初は成功には至りませんでした。



大豆の
利用図

国内市場でトップメーカーの地位へ

競合他社の撤退が相次ぐ中、不二製油は差別化したたん白純度の高い製品を開発し、1967年分離大豆たん白を発売しました。ゲル※形成等による品質向上や食感の演出という機能が高く評価され、国内市場でトップメーカーの地位を獲得しました。



分離大豆たん白 (フジプロA)

その後も技術の高度 分離大豆たん白（フジプロA）
化と新製品開発に注力し、組織状たん白、大豆たん白食
品、大豆ペプチド、水溶性大豆多糖類など、商品構成も
充実。消費者の皆様には直接見えませんが、食生活や健
康に貢献しています。

※ゲル:プリンのように弾力性のある状態



大豆たん白商品

財団発足へ

大豆たん白という新素材を世に広めるため、1979年に大豆たん白質栄養研究会を発足させました。研究助成と研究発表会、国際シンポジウム、講演会等を開催し、関係先から注目される存在となりました。1997年には財団設立の許可を受け(財)不二たん白質研究振興財団となり、活動を続けています。



財団報告会



粉末状大豆たん白

大豆たん白の機能を幅広く活用

不二製油の大豆製品は素材から小売商品まで、さまざまな食のシーンで利用されています。

不二製油が他社に先駆けて事業化した「粉末状大豆たん白」は乳化性、保水性、結着性に優れ、ハムやかまぼこなどの品質強化、安定に貢献しています。近年ではコレステロールの低下作用などの栄養機能も注目され、必須アミノ酸バランスの優れたたん白源として、風味・分散性を改良した製品が栄養健康食品に利用されています。

さらに、脱脂大豆からたん白質を抽出した後の副産物を原料にした食物繊維「水溶性大豆多糖類」は世界で初めて量産化に成功。分散安定性、皮膜性等に優れ、酸性乳飲料や米飯などの用途で、多くの国で利用されています。



水溶性大豆多糖類

また、大豆たん白を酵素分解する工程で生成される「大豆ペプチド」は筋肉の疲労回復・増強効果が高く、ダイエット効果が期待されることから、健康食品やスポーツ栄養



大豆ペプチド



大豆ペプチド



冷凍とうふ

京風がんも

養食品に幅広く利用されています。学校給食や病院食、レストランへは、わずかな時間で味が染み込みやすい「がんも」や保存がきく「冷凍とうふ」など、用途に合わせて使いやすくおいしい製品を幅広く提供しています。

さらに、長年の臨床・基礎研究データを活かし、大豆の栄養成分をたっぷり詰め込んだサプリメントや、コレステロールを下げる効果が認められた特定保健用食品の豆乳などもグループ会社のトーラクや通信販売「ソヤファームクラブ」を通して直接消費者の皆様方にお届けしています。

 **大豆でいいこと。**



大豆で、いいこと。

大豆の魅力を伝えるために

商品をご利用いただいているお客様や学校給食の栄養士の方を対象に、大豆の勉強会（出張授業）や工場見学会を定期的に開催しています。大豆の持っている栄養、機能面の説明や、食糧資源として大きな可能性を秘めている大豆の魅力を伝え、理解を深めていただいています。2010年度は全国で20回を超える出張授業を行いました。



大豆の勉強会（出張授業）

大豆たん白事業の今後の展開

アジア・アフリカを中心に世界の人口は増え続けています。水資源、エネルギー資源の枯渇などの影響で深刻な食糧資源不足が予測される中、大豆の果たすべき役割はますます重要になります。安価で優れたたん白源として大豆たん白事業を海外、特に発展途上国で展開するというビジネスモデルの構築に取り組み始めています。



2010年 活動報告



P21～ 「食の創造」に関する取り組み
お客様への責任
高級チョコレートがお客様の手に届くまで

P25～ 「人権・人材」に関する取り組み
従業員への責任

P30～ 「環境」に関する取り組み
環境ビジョン・方針
環境マネジメント／目標と実績
環境負荷低減への取り組み
環境会計
海外グループ会社の2010年度環境データ

P37～ 「社会貢献」に関する取り組み
地域社会とともに

P39～ 「CSR基盤」に関する取り組み
お取引先への責任
株主・投資家とともに
コーポレート・ガバナンス
コンプライアンスの推進
リスクマネジメントの強化

「食の創造」に関する取り組み

お客様への責任

食品メーカーとしてお客様に安全・安心をお届けするために
原材料から販売までの徹底した品質管理を行っています。

「品質」に対する考え方

不二製油の品質に対する基本精神は、安全で信頼のおける、顧客に満足していただける製品をつくることです。この基本精神に基づいて、1996年に「品質方針」を定めました。また、品質方針を各部門で展開するために「品質指針」を定め、品質の向上に努めています。

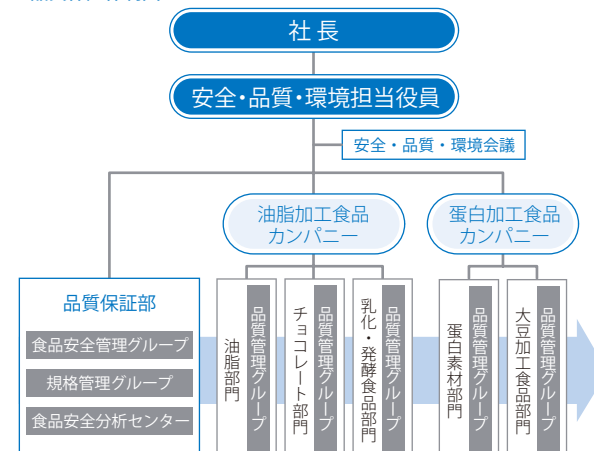
不二製油の品質方針 「顧客満足を実行しましょう」

- 【品質指針】
1. 質の高い提案営業と情報収集を進め、潜在的な顧客ニーズを引き出し、新市場の構築を行う。
 2. 創造的でタイムリーな製品及び技術開発を行う。
 3. 法を守り、ルールを守ること、安全で安心できる安定した品質の製品を作り込む。
 4. 製品づくりに、品質と環境の調和を図る。
 5. 課題の本質に衆知を集めて問題の再発を防止する。
 6. ひとつひとつ真意の伝わるコミュニケーションを図る。

お客様視点による品質保証体制

不二製油では、各部門に「品質管理グループ」を設け原料調達から生産、出荷までの各工程で、当社の規格・基準をクリアしているかを厳しくチェックしています。また、独立機関として「品質保証部」を設置し、全社横断的にお客様の視点で製品を検証し、品質を保証する体制を構築しています。

■品質保証体制図



安全性を高める徹底した品質保証

■品質マネジメントシステム

不二製油グループでは、国内14事業所、海外6事業所で品質マネジメントシステムの国際規格ISO9000シリーズの認証を取得し、他の海外6事業所ではISO22000などの食品安全マネジメントの認証を取得しています。海外の事業所では、HACCP(食品の衛生管理システム)の認証取得も進めているほか、国内の事業所でもHACCPの考え方を取り入れて、製品の安全性をより高めるように努めています。



海外における油脂組成の分析

■品質保証システム

2008年より、トレーサビリティシステム(流通経路情報把握システム)と品質情報管理システムの一元化を行い、2つのシステムを連携させる独自の品質保証システムを確立しました。全プロセスに原材料情報が加わったことにより、迅速かつ正確な情報開示と対応が可能となっています。

■食品安全分析センター

食品安全分析センターでは、原材料や製品の安全・安心を確保するために最新鋭の装置と高度な技術で、アレルギー物質や遺伝子組換え作物、病原性微生物、食品添加物、残留農薬などに関連した高精度な検出・分析を行っています。特に海外から購入した主要原材料は、十分に安全性を確認し品質が保証されたものを使用しています。



最新の機器を使い、高度な分析を行っています

高級チョコレートがお客様の手に届くまで

おいしいお菓子づくりに欠かせないチョコレートは、不二製油の主力商品の一つでもあります。ここでは、高級チョコレートがお客様の手に届くまでの工程をご紹介します。

高級チョコレートづくりは、スタートもゴールもお客様です

不二製油の「ものづくり」はまずお客様の声に耳を傾けることから始まります。

お客様の求めるものを知り、お客様の課題や悩みを良く理解することから始まります。常に「お客様の求める以上の製品・サービスをいかにご提供できるか」を考えて行動しています。

お客様の声



理想とするチョコレートとは



営業・生産・開発で議論(チョコレート分科会)

高級チョコレートにおいても、多くのパティシエから「海外ブランドチョコレートに負けない品質の国産チョコレートはないものか。国産品で良いものがあれば鮮度、価格面でもベストなのだが。」という声をいただいていた。

“何とかお客様の声にお応えしたい。不二製油の歴史、技術、原材料へのこだわりがあれば、風味、物性、美味しさで海外ブランドチョコレートに勝るとも劣らないチョコレートを作り上げ、お客様にお届けできるに違いない。”との不二製油の思いに多くのパティシエから賛同をいただくことができました。

“何とかお客様の声にお応えしたい。不二製油の歴史、技術、原材料へのこだわりがあれば、風味、物性、美味しさで海外ブランドチョコレートに勝るとも劣らないチョコレートを作り上げ、お客様にお届けできるに違いない。”との不二製油の思いに多くのパティシエから賛同をいただくことができました。

高級チョコレートの企画・開発は、営業・生産・開発が参加する「チョコレート分科会」と称される社内会議を中心に進めました。試作段階からパティシエの評価をいただきながら、より良い品質を作り上げていきました。

不二製油は、独自の技術で「食の可能性」を追求・開発しています

チョコレートの研究者は、お客様の声を反映した商品設計から試作、製品化という範囲にとどまらず、主原料の調達にも深く関わっています。特にカカオについては、農園の手入れの状況や発酵乾燥の管理状態も確認を行っています。また、ローストやコンチング*条件の選定など不二製油独自の生産加工技術により、味の深みや美味しさを創造し、パティシエ向けの高品質チョコレートを開発しています。

商品開発の8ステップ

- 商品設計
 - a コンセプト(規格、個性)
 - b 配合組立て
 - c 生産技術での個性化
- 主原料の選択(カカオ、乳原料)
- 生産技術の構築(ロースター、コンチェ)
- 試作(プロトタイプ)
- 社内評価
- パティシエ評価(コンセプト、品質の細部)
- ブラッシュアップ
- 現場で作り込み(完成)

研究開発



繰り返しの試作活動

チョコレートのカカオの醸し出すフレーバーがパティシエのインスピレーションを刺激し、これまでにない新しいお菓子が次々と誕生していく。このような思いで、私たちは魅力的なチョコレートの開発に努めています。

※コンチング：コンチェと呼ばれる機械の中で温度ををかけながら練り合わせる

品質確認と現地とのコミュニケーションの実施

安全・安心の観点からカカオ産地については風味的な品質のチェックはもちろんのこと、残留農薬や重金属などの検査結果を確認しています。さらに最近では、安定供給の観点や環境的観点(フードマイレージ)からアジアの産地にも着目しています。

購買



カカオ豆の天日乾燥



カカオポッド。カカオの樹の果実。長さ20cmくらいのラグビーボールのような形で、その中に種子(カカオ豆)が入っている。



カカオ農園とのコミュニケーション

私達は、購入先の現地でカカオ農園の視察を実施するとともに、現地の方々に彼らの育てたカカオを原料に試作したチョコレートを届けています。そして単なる生産者と購入者の関係ではなく、おいしいチョコレートという共通の目標を持ったパートナーとして取り組めるよう心掛けています。そうすることで、より高品質のカカオ豆を目指した発酵テストなどにも理解が得られ、協力して実施できるようになりました。

安全安心なものの作りと丁寧な小ロット焙煎の実施

世界の産地から調達されたカカオ豆には、そのままでは不良豆や異物が含まれているため、振動ふるい機などで「クリーニング」を行っています。その後、チョコレートの風味作りに重要な「ロースト」が実施されます。ローストは、カカオ豆の最適条件を設定することで、それぞれ特徴のあるカカオマスに仕上げる事が可能です。なかでも、高級チョコレートに使用するカカオ豆は、直火ロースターによる丁寧な小ロット焙煎を採用しています。この直火ロースターは、カカオ豆本来が有する良好な香りを失わずに内部に閉じ込めて焙煎することができます。ローストの際には、カカオ豆の個性を引き出す鍵となる時間や温度の管理を徹底して行っています。

生産



コンチングを終え、チョコレート充填槽に

直火ロースター後のカカオ豆

ローストして得られたカカオマスは、その後砂糖や粉乳などのチョコレート原料と混合され、ロールリファイナーと呼ばれる機械により、ざらつきを舌で感じないレベルまで細かく磨砕されます。その後、コンチェと呼ばれる機械の中で、温度をかけながら練り合わせる「コンチング」作業で、全体的な風味を熟成させ、滑らかな舌触りのおいしいチョコレートに仕上げられています。

ブランディングの構築

食の新しい価値を提案し、お客様に貢献すること。
製品の価値を正しくお客様にお伝えし、理解して
いただくこと。そして製品を使っていただくこと。
食の中間素材メーカーとして、お客様と一緒に新
しい食を創造したいと私たちは考えています。

販売・ お客様



フジサニープラザでのプレゼンテーション

高級チョコレートにおいても、製品の完成がす
ぐに購買につながるというものではありません。パ
ティシエは、総合的な品質という中で、特に個性
やコンセプトを大切にされます。パティシエに認
められるブランドの構築が必要です。品質ととも
に、商品名、パッケージ、コンセプトに至るまで、今
までの製品とはまったく違うこだわりを持った高
級感のあるブランドを創り上げていきました。



甘さを抑え、豊潤なカカオ感と
濃厚なミルク感のあるショコラデザート



DUOFLORE (デュオフロール)

中南米の高品位カカオビーンズと
フランス産の濃厚ミルクのブレnding

由来：優れた個性をもつ2つの素材が絶妙なバランスで融合することで、力
強いミルクチョコレートへと変貌を遂げる。その過程をローマ神話の「風
の神ゼフィロス」と婚姻した「花の女神フロール」にちなみ、DUOFLOREと
名づけました。

チョコレート研究会と提案営業

その完成をもって、まずは全国のフラッグシッ
プの有名店パティシエへの紹介・販売を開始し
ました。その一環として、日本でトップのパティ
シエを一同に集めた「チョコレート研究会」を
2004年から開催しています。同研究会は、チョコ
レートの本場ベルギーから有名パティシエを講
師として招き、講習・試食と活発な意見交換が行
われています。

また、日々の販売活動として、お客様の課題を
一緒に解決していく「提案営業」が挙げられます。
パティシエや技術者への積極的な訪問や、不二製
油とお客様との共同開発の場（フジサニープラザ）
でのプレゼンテーションを通して、よりお客様の
要望・期待に応える営業を行っています。

これらの活動により、トップパティシエだけで
なく、幅広く洋菓子業界でも評価をいただいています。



ベルギーパティシエによるチョコレート研究会

「人権・人材」に関する取り組み

従業員への責任

従業員一人ひとりの個性や多様性を尊重し、
いきいきと仕事に取り組める環境を整備しています。

新中期経営計画

「Global & Quality2013」人事の基本方針

不二製油グループ発展の基盤は人材であるとの考え
のもと、いきいきと働ける職場環境の実現と人材育成
を推進するため、次の基本方針を策定しています。

1. 新人事制度の定着を図り、従業員の意欲と満足度を
高め、経営基盤を強化します。
2. 「質の国内」を支える人材の育成を図ります。目標に
チャレンジし、いきいきと活躍できる人材を育成し、
そのための環境整備を行います。
3. 海外で活躍できる人材の育成と、安心して海外で働
ける支援体制の充実を図ります。
4. 従業員が良き企業市民として社会にも貢献できるよ
う職場環境の整備と企業風土の醸成を図ります。

雇用

■雇用の基本方針と雇用状況

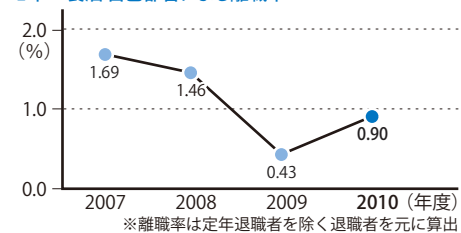
不二製油は安定的な雇用、中長期的な雇用の確保を
基本的な方針としています。

2011年3月31日現在、不二製油の正社員数（出向者
を除く）は1,117名、準社員・契約社員211名となってい
ます。2010年の退職者（役員、定年退職者を除く）は24
名（うち自己都合退職は10名）で、自己都合による離職
率（正社員のみ）は0.9%でした。

■不二製油 従業員数内訳（2011年3月31日現在）

	男性	女性	計
役員（社外役員除く）	17	0	17
正社員・嘱託	941	176	1,117
準社員	16	46	62
契約社員	123	26	149
平均年齢（従業員）	42歳2カ月	35歳8カ月	41歳2カ月
平均勤続年数（従業員）	18年10カ月	13年5カ月	18年0カ月

■不二製油 自己都合による離職率



■新卒採用者数

	2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学・大学院卒	13	6	13	9	11	6	15	6
高校・高専・短大・専門卒	5	0	3	2	5	3	10	0
合計	24		27		25		31	

■連結会社 地域別従業員数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
日本	1,639	1,754	1,643	1,642
アジア	1,631	1,653	1,679	1,727
米国	88	91	96	103
欧州	98	100	106	102
合計	3,456	3,598	3,524	3,574

労使関係

■労使での取り組み

不二製油では「労使対等の対話」を大切に、「労使相互
の信頼関係」の構築に注力しています。

会社と労働組合とは活発に協議しており、「中央労使
懇談会」を毎月開催しています。従業員の昇給・賞与、そ
の他人事課題についても、「労使協議会」を開催して会社
の業績や動向、経営の諸問題、世の中の動きなどを情報
交換し、プロセスを踏んで進めています。また、会社、労
働組合双方の代表者で構成する「人事諸制度検討委員
会」を発足し、人事制度の問題等を議論し改善する、よ
り良い会社づくりに向けた取り組みも行っており、ワー
クライフバランスについても労使で協議しています。

また、毎年中期経営計画発表会には、組合幹部、上位
等級の組合員の参加を積極的に行っています。さらに毎
年社長を交えた労使懇親会を開催し、社長との意見交
換を行っています。

voice・労働組合からのコメント

不二製油労働組合は、不二製油で働く
一人ひとりが活気ある人生を過ごせるよ
うなサポート活動に従事しています。
組織を支えるのは『人』です。『人』の成
長が労働・社会活動の充実をもたらし、更
なる充実した時間を持つことができると
考えています。



不二製油労働組合
中央執行委員長
大野 雅則

労働組合としては、組合員の気付きを
促す一方で、職場の意見や労働環境の改善などを会社へ提言
しています。これらの活動を通して、個人のたゆまぬ成長を伴っ
た『二つとない、働きがいをつくる』を目指しています。

従業員への責任

人事制度・人材育成の基本的な考え方

不二製油の求める人材像は、価値観を共有し実践に移すことのできる人材、継続的に成果を上げる人材です。

仕事を通じて能力の向上が図られるとともに、やり甲斐や働き甲斐が得られ、またチャンスが均等に与えられる、公正で理解が得られる制度づくりに取り組んでいます。

■ 新人事制度の導入

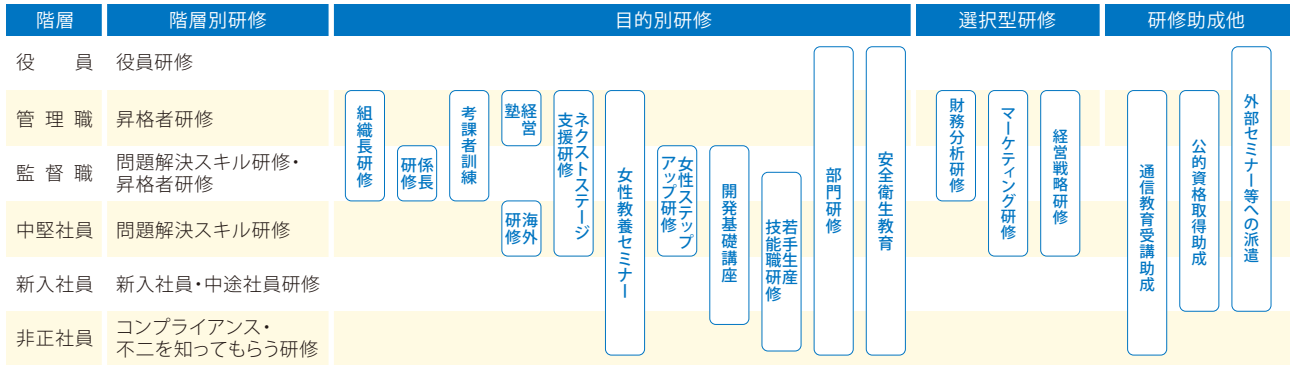
不二製油では従来の「単線型人事制度」を改定し、2010年4月より「複線型人事制度」を導入しています。これは、従業員の意欲と満足度を高め、それぞれの仕事の役割を明確化し、経営基盤を強化することを目的としています。

2011年5月実施の従業員意識調査の結果をみると、新人事制度の理解度・納得度は上昇しています。しかし、チャレンジ・意欲やモチベーションが停滞している階層もあり、新制度の問題点を捉え、引き続き新制度の定着に向けて取り組んでいます。

■ 人材育成

不二製油は、企業の発展は人の育成からと、グローバルに活躍できる人材、経営の視点に立った思考・行動のできる人材、失敗を恐れず自ら「革新」にチャレンジする人材の育成を目指しています。「仕事や経験を通じて成長する」という考えのもと、OJTを中心に階層別研修、目的別研修、選択型研修を行っています。

■ 研修体系



特に昇格者を対象とした階層別研修（昇格者研修）に注力しており、新しい階層で期待される役割に必要な知識に関し、社内外の講師が研修を行っています。昇格者研修では、社長との対話の時間を設け、経営トップの考えを直接聞ける機会をつくっています。

また、管理者には人事制度の評価の公平性の維持・向上のために、管理者研修（考課者訓練）を毎年義務づけています。

さらに、語学研修や通信教育などの支援も行っており、OFF-JTにも取り組んでいます。



新入社員研修

■ キャリアアップのシステム

「キャリアアップ コミュニケーション シート」は、単なる自己申告制度でなく、上司との積極的なコミュニケーションを通してキャリアアップを図り、活躍の場を広げるためのシステムです。

このシステムを活用し、グローバル人材の育成に向けて、海外勤務やトレーニー制度の希望などについて、十分な話し合いが行われています。

ワークライフバランスの推進

多様な社員一人ひとりの価値観やライフサイクルにあわせ、ワークライフバランスを推進しています。充実した働き方と個人生活の実現のために、有給休暇取得の向上にも取り組んでいます。

■ 有給休暇取得率				(%)
2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
48.0	47.9	46.6	49.9	

■ 仕事と育児・介護の両面支援

不二製油では、仕事と育児・介護の両立支援に向け、育児休業制度・短時間勤務制度などの拡充に取り組んでいます。これらの取り組みが評価され、2010年6月、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。今回の取得は、2005年から5カ年計画で当社が仕事と育児の両面支援に取り組んできた成果が認められたものです。



■ 育児介護休業取得者数							(人)
	2008年度		2009年度		2010年度		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
育児休業取得数	0	4	2	6	1	5	
育児者の短時間勤務利用者数	0	2	0	6	0	11	
介護休業利用者数	0	1	0	0	0	0	

voice・育児休業取得者の声

気持ちよく休暇を取得させてくれた上司をはじめ、同僚に本当に感謝しています。2人目の育児中には上司の異動がありましたが、引継ぎをきちんとしてくださったので、何の心配もなく復帰できました。

育児に関しては、夫が積極的に協力してくれています。大変なのは子供が体調を崩したときですが、夫と交互に休む、時には母に手伝ってもらうなどして、育児と仕事を両立しています。忙しい毎日ではありますが、子供の成長を感じる瞬間がとても幸せな気持ちになります。これからも大きな壁があると思いますが、上司や同僚、家族に相談しながら、育児と仕事を両立していきたいと思っています。

蛋白加工食品部門
大豆加工食品販売部
堀 真澄

多様性と人権の尊重

不二製油は国籍、性別、年齢、身体的障がいなどにとらわれず、多様性と人権を尊重し、多様な価値観を活かす組織づくりに取り組んでいます。

■ 女性の活躍支援

「不二製油の女性がはつらつと働ける環境」の実現を目指し、自己実現と会社への貢献を目的とした「不二アクティブネットワーク (FAN) 活動」を行っています。

12年目となる2010年度は「社外イキイキ分科会」と「社内いきいき分科会」の2グループに分けて活動し、他社との交流や社内浸透策についての議論、座談会やアンケートの実施などを行いました。



2010年度 FANメンバー

■ 障がい者雇用の促進

2010年度の障がい雇用率は1.82%と法定雇用率の1.8%を上回っていますが、定年退職等により低下傾向にあります。今後もさらなる雇用の維持・拡大、入社後の支援強化、職場環境の整備を進めていきます。

■ 障がい者雇用率				(%)
2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
2.35	2.36	2.05	1.82	

■ 定年退職者再雇用制度

定年退職した従業員の豊かな経験と技能を後輩に伝え、本人の働き甲斐を支援するために、65歳までの雇用を可能とする再雇用制度を設けています。2010年度の再雇用率は88.9%でした。

■ 再雇用率				(%)
2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
85.7	88.2	100.0	88.9	

従業員への責任

安全衛生

■ 労働安全衛生への取り組み

「安全品質環境会議」と「グループ安全環境会議」を設け、全社・全グループでの災害防止に取り組んでいます。2009年度からは、リスクアセスメントを導入しています。

また、生産管理本部による国内外のグループ会社・工場との安全衛生定期協議会を定期的（2年に1回実施）に行う計画で、2010年度は4事業所（対象10事業所中）で開催しました。2010年度の国内での全労働災害発生は前年とほぼ同件数となりましたが、休業災害が増加しており、引き続き、全グループ会社での災害防止に取り組んでいきます。

■ 不二製油・国内グループ会社災害合計 (件)				
	2007年	2008年	2009年	2010年
不休災害	26	25	15	14
休業災害*	6	6	2	4
合計	32	31	17	18

※休業災害：休業一日以上の災害

健康管理

社員の健康意識を向上させ、健康障害防止対策を推進し一人ひとりの健康の増進を図ることを目的として、病気の早期発見・早期治療のための各種健康管理および健康増進対策を実施しています。

■ 心の健康相談室（メンタルヘルス対策）

メンタル不全の早期発見・早期治療を目的に、国内各事業所に「心の健康相談室」を設置するとともに、社外のカウンセリングルームも利用できるようにして、気軽にカウンセリングを受けることができる環境を整備しています。

いきいきとした風土づくり

■ 「PIC活動」の推進

従業員のモチベーション向上や若手への技能・技術の伝承を目的に、2007年から3S（整理・整頓・清掃）、ISO9001・14001の目的目標、TPM※1やTQC※2を踏まえた「PIC※3活動」を展開しています。

年2回、現場の問題点を発見し、その改善活動の成果

を発表する「PIC活動発表会」を開催しています。2010年度は5月（第5回）と10月（第6回）に行われ、26チーム（海外4チーム）が参加しました。

※1：TPM(Total Productive Maintenance)：全員参加の生産保全。生産システムの効率化を追求し、ライフサイクル全体を対象に“災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロ”などあらゆるロスを未然防止する仕組みを構築

※2：TQC(Total Quality Control)：総合的品質管理

※3：PIC(Productivity Improvement & Challenge)：生産性推進活動

■ 「QR活動」の推進

不二製油では、1995年から「QR(クイックレスポンス)運動」を開始し、お客様の満足度の向上を目的に、2010年度は「お客様とともに感動を！」「Good Communication & Quick Response」をスローガンにさまざまな活動を展開してきました。

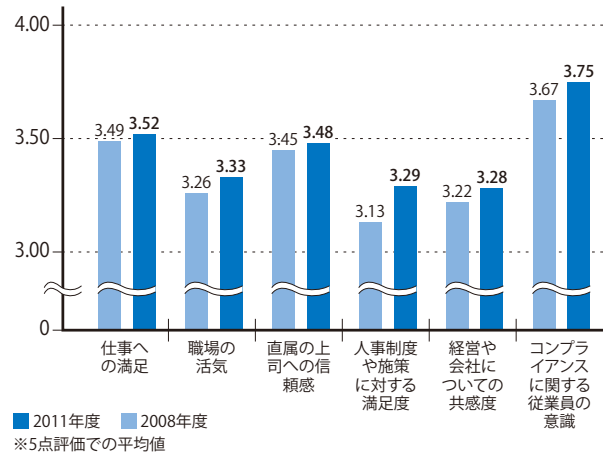
今後も引き続き、QR活動の推進を通じて、お客様とともに感動できる会社、そのような企業風土の醸成を図りたいと考えています。

■ 社員意識調査の実施

不二製油では、仕事や組織等に関する現状の意識をを明らかにするため、不二製油および国内グループ会社従業員を対象にした社員意識調査を2011年5月に実施しました。

今回の調査では、職場の活気、経営や会社についての共感度などは改善しましたが、一部で課題もみられました。今後は、社員のモチベーション、組織風土の改善、コンプライアンス浸透等への改善施策を実施していきます。

■ 社員意識調査結果



従業員とのコミュニケーション

社長と「二つとない、をつくる。」を語る会 開催

従業員は、会社にとって重要なステークホルダーです。

CSR推進室では、2010年に策定したコーポレートメッセージ「二つとない、をつくる。」

をキーワードに、社長と従業員それぞれの思いを語り合う場として、

『社長と「二つとない、をつくる。」を語る会』を開催しました。

普段話す機会の少ない社長と“Face to Face Communication”を図ることを目的に、

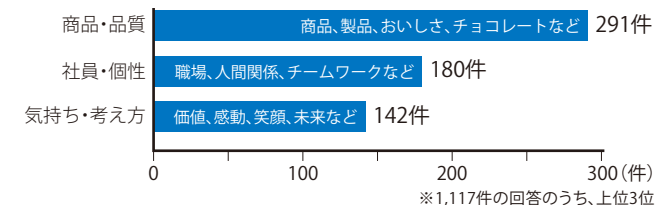
今年は札幌営業所・名古屋支店・福岡支店にて実施しました。



社員意識調査結果

あなたにとって「二つとない、をつくる。」とは

2011年5月に実施した社員意識調査にて、従業員の思いを書いてもらいました。ここでは、上位3位をご紹介します。



Topics

不二製油の社会的責任について考える会 開催

CSRが各々の仕事と密接に関わっていることを理解し、不二製油らしいCSRとは何かを議論することで、CSRの社内浸透を図るため、研究開発、営業、管理部門の各拠点にて、「不二製油の社会的責任について考える」会を実施しています。

参加者からは、「CSRについて色々考えることができた」、「他の人の意見を聞き参考になった」などの声が聞かれ、CSRと仕事の繋がりについて考えるきっかけとなっています。

今後もCSRと本業との関わりを考える場として継続していきたいと考えています。



環境ビジョン・方針

「環境ビジョン」の策定、「環境経営の推進」を掲げ、自然環境と調和した事業活動を強化していきたいと考えています。

環境ビジョン2020

2011年6月、不二製油グループの環境活動の指標として「不二グループ環境ビジョン2020」を策定しました。

CO₂排出量と給排水量の削減は絶対値目標とし、2020年に20%の削減を目指しています。また、地球緑化、生物多様性へも積極的に取り組みます。現在は里山保全や植林活動に参加し、美しい自然を次世代に残すための活動を開始しています。

CO₂排出量については海外グループの目標も設定しています。使用エネルギーは国内よりも海外の方が多く、海外グループにおける省エネルギーは不二製油グループにとって重要な環境課題です。

特にCO₂排出量20%削減を達成するためには、設備更新時の省エネタイプの導入と生産性推進活動（PIC活動）での地道な省エネ、省給排水の推進が柱となります。さらに、革新的な省エネ技術の確立も必須となり、簡単に達成できるビジョンではありません。全グループで知恵を出し合い、すべての事業活動で環境負荷を低減することを常に意識し、不二製油グループの社員一人ひとりが「環境ビジョン2020」に取り組んでいきたいと考えています。

不二グループ環境ビジョン2020

国内グループ

地球温暖化防止

CO₂排出量 2020年20%低減（基準年対比※）

水資源の保全

給排水量 2020年20%低減（基準年対比※）

※基準年：03-05年平均値

資源リサイクル

再資源化率 2020年99.8%以上

地球緑化、生物多様性への積極取り組み

海外グループ

CO₂排出量 2020年20%低減（2006年対比）

■ 中期経営計画における環境経営の考え方

不二製油グループの2011～2013年度中期計画の基本方針の一つに「サステナブル経営の推進」を定め、環境経営の推進を掲げました。

- ①環境に配慮（省資源、地球温暖化防止）した製品の開発と生産プロセスの改善・変革
- ②環境に配慮（生物多様性）した原料資源の調達
- ③法人（企業市民）としての地球環境保全への関与

これらを通して企業価値を向上させることを環境経営の基本と考え、積極的に取り組んでいきます。

■ 環境格付融資において最高ランクを取得

不二製油は、2011年5月株式会社日本政策投資銀行（以下、同行）が行う「環境格付融資」において、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付を取得し、同行より環境格付に基づく融資を受けることになりました。

同行が推進する「DBJ環境格付融資」とは、同行が開発した格付システムにより、企業の環境経営度を評点化、得点に応じて3段階の適用金利を設定するという、世界で初めて環境格付の専門手法を導入した融資制度です。



DBJ環境格付融資先企業として認定

当社が特に高い評価を受けた点

- 1.製造過程において発生する副産物を高度に活用した製品を展開している点
- 2.ゼロエミッション達成に向け、汚泥乾燥設備やバイプロ油ボイラーなどを導入することにより、廃棄物発生量を削減し、高い食品リサイクル率を維持している点
- 3.物流対策として、毎年3,000t増加という目標を掲げモーダルシフトを推進、鉄道輸送量を増加させている点

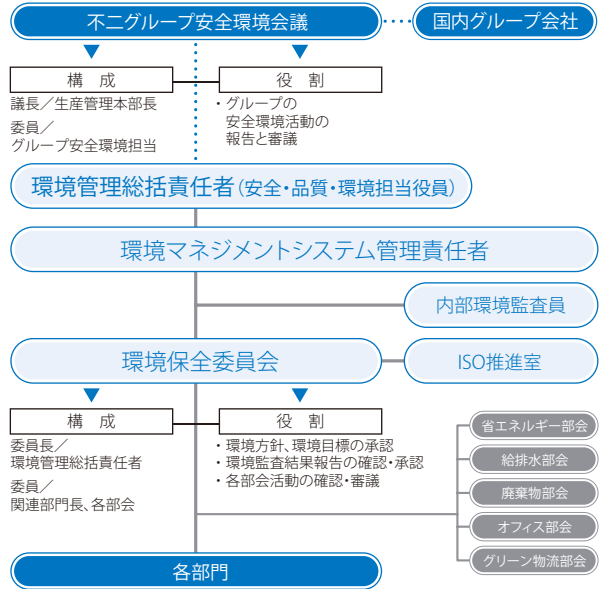
環境マネジメント／目標と実績

グループ全体で環境マネジメントシステム体制の強化、推進に努め、環境活動に取り組んでいます。

■ 環境マネジメントシステム体制の強化

不二製油では「環境保全委員会」の設置に加え、「省エネルギー部会」「給排水部会」「廃棄物部会」「オフィス部会」「グリーン物流部会」の5つの専門部会を設けて環境保全活動を展開し、毎月開催する「安全・品質・環境会議」、年2回開催する「不二グループ安全環境会議」で体制をより強化しています。

■環境マネジメントシステム



2010年度環境目標と実績

	項目	内容	2010年度目標	2010年度実績	掲載ページ	2013年度目標
1	省エネ推進	エネルギー原単位の削減	2007年度対比5%の削減	3.1%の削減 ×	P32	2010年度対比CO ₂ 排出量6%の削減 (国内グループ)
2	給排水削減	給水量原単位の削減	2007年度対比5%の削減	10.5%の削減 ○	P34	2010年度対比6%の削減 (国内グループ)
		排水量原単位の削減	2007年度対比5%の削減	10.4%の削減 ○	P34	
3	廃棄物削減	排出廃棄物の削減	2007年度対比20%の削減	10.2%の削減 ×	P34	再資源化率99.8%以上 (国内グループ)
4	温室効果ガス削減	CO ₂ 排出量原単位の削減	2007年度対比5%の削減	2.6%の削減 ×	P32	2010年度CO ₂ 排出量の維持 (海外グループ)

- 省エネ**では、2010年度はスチームトラップなどの地道な活動等により、エネルギー原単位を下げることができました。しかし、2009年度のエネルギー原単位が大きい生産ラインの使用量増加の影響が大きく、目標を達成できませんでした。
- 給排水**では、2010年度に給水量が生産数量の増加により微増しましたが、ドレン水の再利用等により、給水や排水の原単位を下げることで、目標を達成できました。
- 廃棄物**では、汚泥の乾燥や脱水効率を上げる事で排出廃棄物の削減を進めてきました。排出原単位は減少しているものの、生産数量の増加により、排出量が微増し、目標を達成できませんでした。

■ ISO14001認証取得状況と環境監査

2000年9月、不二製油グループ国内生産数量の85%を占める阪南事業所で取得以来、国内生産拠点での認証取得を順次進めてきました。2010年12月にりんくう工場が取得し、国内生産拠点8工場で認証取得が完了しました。また、ISO14001に基づき毎年7月～9月に「内部環境監査」、10月に外部認証機関による「外部審査」を実施しています。2010年度の内部監査による指摘は3件ありましたが、迅速に是正処置を行いました。

■環境監査実績（国内グループ）

		内部環境監査	外部審査
2008年度	不適合	4	0
	観察事項	83	27
2009年度	不適合	2	0
	観察事項	82	5
2010年度	不適合	3	0
	観察事項	111	13

■ 環境リスク管理

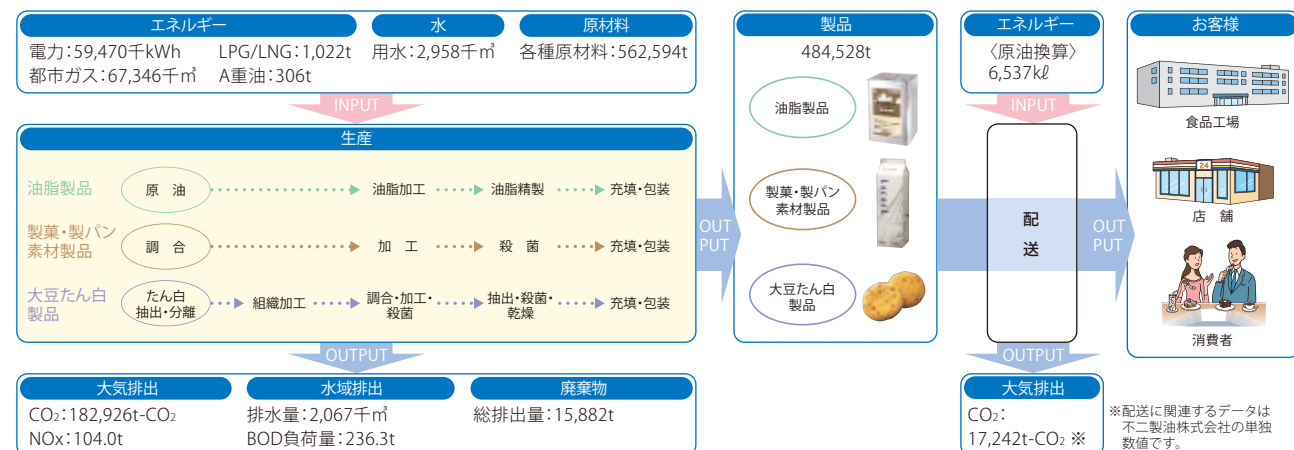
各事業所では環境負荷について監視測定をしています。2010年度では阪南事業所で排水pH値の超過が1件発生しました。環境に重大な影響を与えるものではありませんでしたが、原因を特定し再発防止に努めています。

環境負荷低減への取り組み

事業活動に伴う環境への影響を適切に把握し
環境負荷の低減に努めています。

事業活動と環境負荷低減

不二製油グループでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を低減するために、原材料の調達から生産、物流における資材・エネルギーの投入量（INPUT）、廃棄物などの排出量（OUTPUT）を把握し、分析しています。



地球温暖化防止活動

生産活動における取り組み

不二製油グループの事業活動の中で、最も環境負荷が大きいのは生産活動です。この生産活動における省エネルギーの推進やCO₂などの温室効果ガス排出量削減などに積極的な取り組みを行っています。2010年度は、エネルギー使用量（原油換算）が91,592kℓで対前年比0.1%、CO₂排出量は182,926t-CO₂で対前年比0.1%と、ごくわずかですが減少となりました。

省エネルギー設備の導入や燃料転換の推進

コ・ジェネレーションシステムの導入や重油から都市ガスへの燃料転換などに積極的に取り組んでいます。2010年2月に導入した副生成植物油を再利用するボイラーにより、原油換算で約1,000kℓ削減できました。排水処理のメタン醗酵工程より産出されるメタンガス（都市ガス換算で約50万m³/年）も有効利用しています。

今後さらにバイオエネルギーの利用を拡大し、温室効果ガス排出量削減を進めていきます。

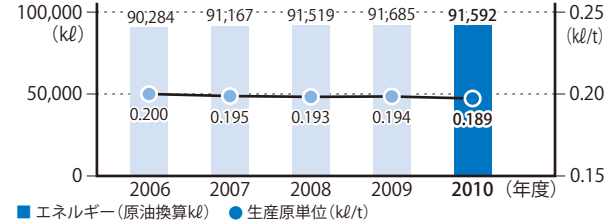
各事業所で省エネルギーに貢献

阪南事業所では、「省エネルギー部会」を中心に、省エネ活動を展開しています。特にスチーム配管内からドレンを排除するスチームトラップの改善を毎年進めてお

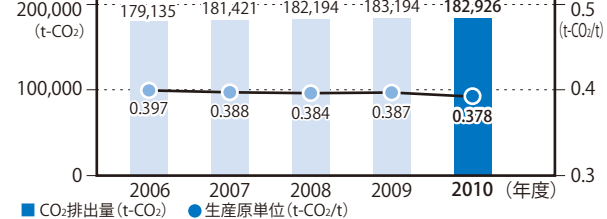
り、2003年時点で23.1%あった不良率が2010年では8.2%まで減少し、大きな効果を発揮しています。

石川工場では、2010年12月より、おから乾燥機の燃料をLPGから副生成植物油に変更、さらに排熱回収設備を導入し、省エネ活動を推進しています。また、堺工場では、ボイラーの吸気プロアーをインバーター制御することで省エネルギーに努めています。

エネルギー使用量と原単位推移



CO₂排出量と原単位推移



注) 2006年度の改正省エネ法及び温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度の施行に伴い、エネルギー使用量の原油換算とCO₂総排出量の換算係数は以下の資料を参考としました。

CO₂総排出量: 「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」より（環境省HP温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度資料）

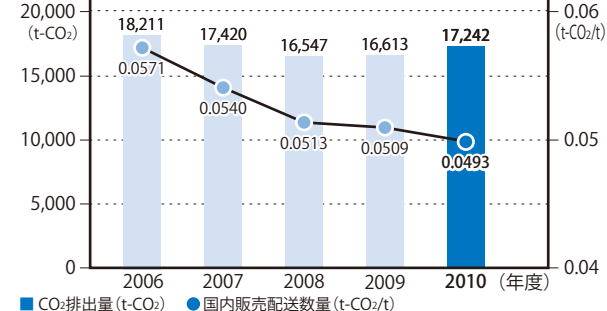
エネルギー原油換算量: 「エネルギー使用量の計算方法（改訂版）」（省エネルギーセンターHP改正省エネ法資料）

物流における取り組み

不二製油では、物流パートナーとともにエネルギー使用量およびCO₂排出量の削減に取り組んでいます。2010年は、モーダルシフト※1の推進強化等により、3.1%削減となりました。

※1 自動車や航空機による貨物輸送を鉄道や船舶にシフトすること

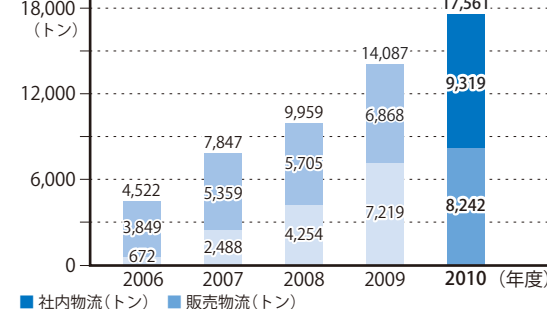
輸送によるCO₂排出量と原単位推移



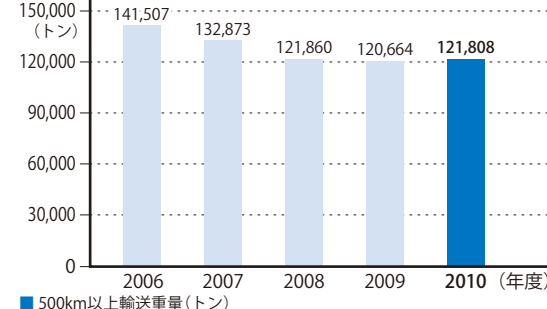
モーダルシフトの取り組みは、目標である3,000トン増加を達成し、17,561トンとなりました。これは、パートナーとの協力に加え、社内では購買物流本部だけでなく、生産部門等にも協力をお願いし推進できた事が大きな要因です。

今後もモーダルシフトの推進とともに、社内の長距離輸送の削減もより一層強化していきます。

鉄道輸送重量



トラック: 500km以上輸送重量の推移



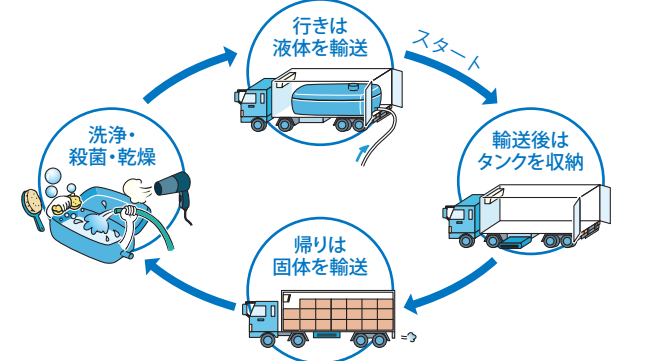
サプライヤーとの協働による環境負荷低減

北海道輸送にJRコンテナを利用

砂糖、粉乳は北海道のサプライヤーより工場別発注で調達していましたが、2010年度よりJRコンテナ単位での購入に切替えました。これにより運送でのCO₂排出量の削減を行うとともに緊急発注などでのムダも削減しました。

ソフトタンク輸送の切替範囲を拡大

ソフトタンク輸送へ切替えたことにより、チルド品はより良い品質での原料調達が可能となりました。2011年度は品目も脱脂濃縮乳のみから生クリームに拡大します。循環配送は関西圏工場だけでなく、関東圏にも拡大し、実施する予定です。



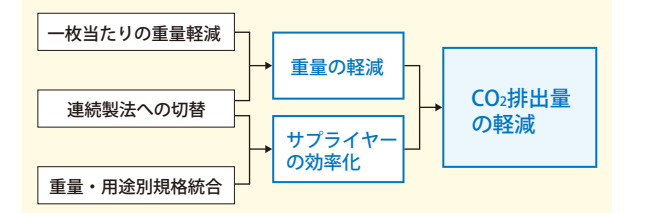
※ソフトタンク輸送: 行きは液体、帰りは個体を輸送すること

サプライヤーと一体となった包材調達

従来段ボールは、紙粉対策のため、一品ごとに抜き型を作成し購入していましたが、サプライヤーの協力を得て、抜き型を使用しない連続生産が可能で歩留まりの良い段ボールを2009年から調達しています。

また、クリーム用のフィルムおよびチョコレート用の缶の薄化に取り組んだ結果、2010年度の包材のCO₂排出量削減は219t-CO₂/tとなりました。2011年度はフィルムの共通規格化を行う予定です。

段ボールCO₂排出量削減の取り組み



環境負荷低減への取り組み

水資源の保全と有効利用

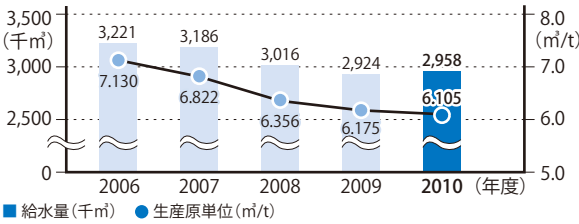
■ 給排水の削減を実現

工場では水資源保全のために、タンク・配管などの洗浄や冷却用に使用する用水削減に取り組んでいます。排水は、浄化処理したうえで水質管理を徹底し下水道や公共用水域へ放流しています。

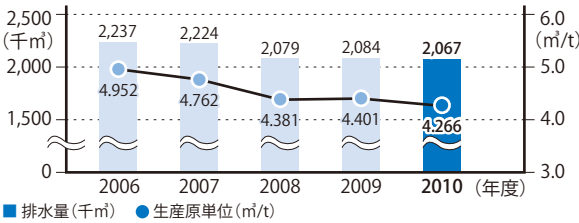
不二製油グループの2010年度実績は、給水量では生産原単位が1.1%減少し、排水量では生産原単位が3.1%の減少となりました。

阪南事業所では、製造工程で使った蒸気からできるドレンを使って、冷却塔の補給水や排水処理設備で使用する薬剤の希釈水に再利用し、年間1万㎡の排水量の削減を予定しています。

■ 年間給水量の推移



■ 年間排水量の推移



■ 地場企業と連携した循環使用の実現

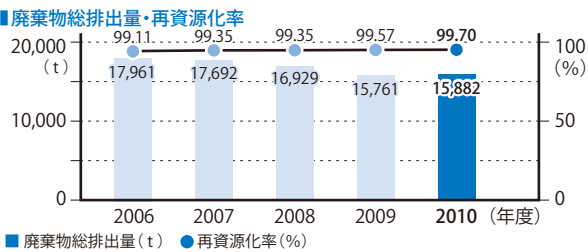
排水処理に利用する硫酸は、従来バージンの硫酸を利用していましたが、地場企業で使用済みの硫酸があったため、品質確認を行った結果、排水処理用であれば使用可能と判断し、2010年度より地場企業と連携した硫酸の循環使用を実現しています。

廃棄物の削減と再資源化

不二製油グループでは、廃棄物削減と生産工程で多く発生する原料の植物性残さや汚泥の再資源化に積極的に取り組んでいます。2010年度の廃棄物排出量は、グループ全体で15,882トンでした。これは千葉工場の

生産増により、前年度に比べ121トン、0.8%の増加となりました。しかし、最終処分量は48トンで、前年度に比べ20トンの削減となり、再資源化率は99.70%でした。

今後も全社ゼロエミッション達成に向け、再資源化率の向上と最終処分量の削減を目指します。

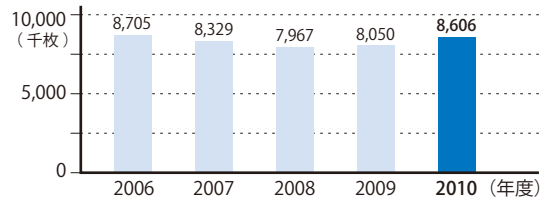


オフィスでの取り組み

■ コピー用紙の削減に向けて

2010年度は2009年のホストコンピューターの更新に伴い、各部門へのコンピュータ出力用紙の配布は廃止しましたが、減少した分コピー用紙が増加しています。2010年度は、2009年度に対し6.9%(約56万枚)増加しました。今後さらにペーパーレス活動を強化し、削減できるよう努力を続けていきます。

■ OA用紙使用数の推移



■ 環境教育

不二製油では新入社員研修で環境保全やISO14001について教育を実施しています。

また、ISO14001の内部監査に必要な内部監査員を毎年外部講師を招いて養成しています。2010年は107名が受講しました。その他、随時環境問題や環境活動については、社内報や部門研修などで啓発をしています。



ISO内部監査員養成研修

環境会計

環境省「環境会計ガイドライン 2005 年版」に準拠して、環境保全活動に要したコストとその効果を集計しています。

環境会計

不二製油の環境コストは、排水処理や廃棄物処理に関わる公害防止コストや資源循環コストの割合が高くなっています。その他、コ・ジェネレーション設備の維持管理や環境マネジメントシステムの運用、活動推進のための地球環境保全コスト、管理活動コストなどがあります。

2010年度の地球環境保全コストでは、おから乾燥機

の省エネ改善や、資源循環コストの排水処理設備改善などが主な投資となりました。投資総額は、大型投資の減少により、2009年度に比べ減少しました。

環境保全効果は、廃棄物以外は2009年よりほぼ減少しています。廃棄物の増加要因としては千葉工場での生産量の増加があげられます。しかし廃棄物の再資源化を着実に実施し、廃棄物の再資源化は99.70%まで上げることができました。

集計対象: 不二製油株式会社(単独) 対象期間: 2010年4月～2011年3月

■ 環境保全コスト

分類	主な取り組み事例	2009年度		2010年度	
		環境投資額	費用額	環境投資額	費用額
事業エリア内コスト		305	940	128	890
内訳	①公害防止コスト	38	474	37	419
	②地球環境保全コスト	241	124	75	192
	③資源循環コスト	25	342	16	279
上・下流コスト	段ボールレス化設備の導入、グリーン購入費差など	—	4	—	0
管理活動コスト	ISO14001マネジメントシステムの構築、維持、社員教育、環境報告書作成費など	—	263	—	234
研究開発コスト	資源の高度利用研究など	—	103	—	133
社会活動コスト	工場周辺清掃活動、環境保全などを行う団体への支援など	—	3	—	4
環境損害対応コスト	汚染負荷量賦課金	—	9	—	8
合 計		305	1,322	128	1,270

■ 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2008年度	2009年度	2010年度	増減量
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	エネルギー使用量原単位	L/t	188.3	189.0	184.4	△4.6
	給水量	千㎡	2,774	2,680	2,689	9
	給水量原単位	㎡/t	6.11	5.91	5.80	△0.11
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO ₂ 排出量原単位	kg-CO ₂ /t	373.3	376.0	366.6	△9.4
	排水量	千㎡	1,885	1,889	1,853	△36
	排水量原単位	㎡/t	4.15	4.17	4.00	△0.17
	廃棄物排出量	t	15,352	14,045	14,444	399
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	廃棄物排出量原単位	kg/t	33.8	31.0	31.2	0.2
	廃棄物再資源化率	%	99.35	99.57	99.70	0.13
その他の環境保全効果	コンピューター出力用紙	千枚	7,967	8,050	8,606	556

※エネルギーの換算係数等、データの見直しにより前年報告値と異なっているところがあります。

■ 環境保全対策に伴う経済効果

環境保全効果の分類	効果の内容	金額	
		2009年度	2010年度
収益	廃棄物再資源化による有価物の売却益(おから、廃油、廃段ボール売却)	20	19
費用節減	廃棄物の削減によるコストダウン	42	27
合 計		62	46

算定方法

- 投資額: 投資目的の50%以上が環境保全であるものは、全額環境投資とみなしました。
- 減価償却費: 投資目的の50%以上が環境保全であるものを過去6年間にさかのぼり一律12年間の定率消却としました。
- 直接把握が可能な費用については、原則として全額を集計しました。直接把握が困難な費用については、実態に即した比率で按分計算し、集計しました。
- 環境保全対策に伴う経済効果については、把握可能な効果のみを集計しました。

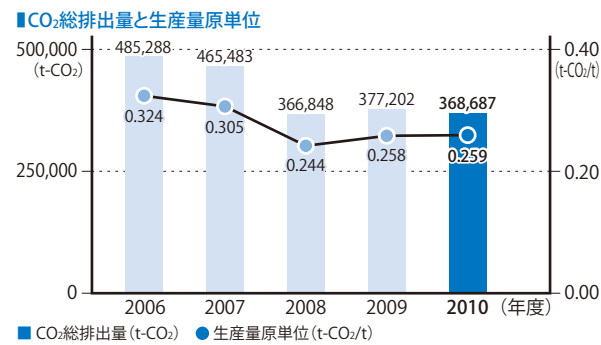
海外グループ会社の2010年度環境データ

海外生産拠点の環境データの集計を行い、グループ全体で環境活動に取り組んでいます。

●集計内容：2006年度～2010年度の環境データ（エネルギー、給排水、廃棄物）
●対象拠点：海外生産拠点12社*

CO₂総排出量

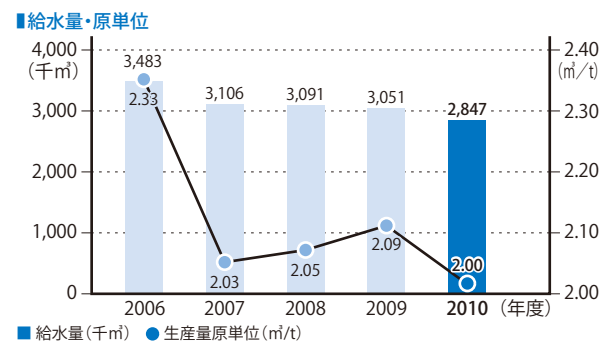
2010年度のCO₂総排出量は対前年97.7%と若干減少しましたが、生産量原単位は対前年100.2%となりました。SLFでは生産で使用する蒸気の熱源を石炭から天然ガスに変え、CO₂排出量は減少しました。一方、生産量の増加に伴い、エネルギー使用量が増加した拠点もありました。



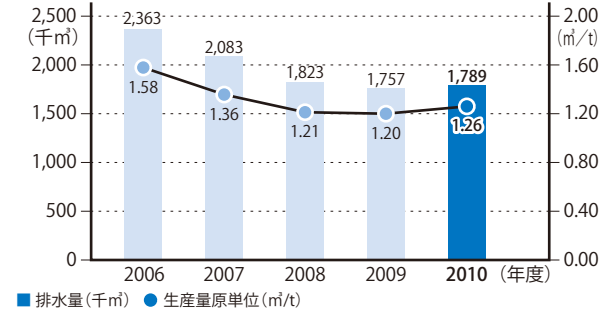
給排水量

2010年度の給水量は生産数量の減少率とほぼ同様の比率で減少しました。FZGでは埋設配管の修理により、給水量を削減できました。

排水量は生産量の減少にもかかわらず、微増となりました。FZGでは雨水と排水、汚水との分離を行い、雨水分の排水量は減少しましたが、他方、設備の新設、故障および作業方法の変更等で給排水量が増加した拠点もありました。



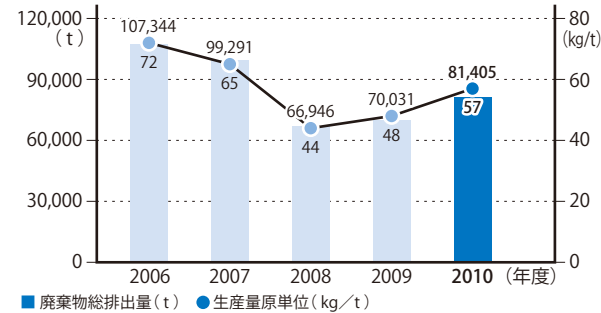
排水量・原単位



廃棄物

2010年度の廃棄物総排出量は対前年116.2%と増加しました。12社中4社の排出量が増加しており、特に3社で対前年20%以上の増加が見られました。このうち特に増加率が高かった拠点では、工場の新規稼働による廃プラスチック類の増加が要因としてあげられます。

廃棄物総排出量・最終処分率



*対象拠点12社

- FOS : FUJI OIL (SINGAPORE) PTE.LTD.
- PAL : PALMAJU EDIBLE OIL SDN BHD
- WSF : WOODLANDS SUNNY FOODS PTE.LTD.
- FOE : FUJI OIL EUROPE
- F A I : PT.FREYABADI INDOTAMA
- FVO : FUJI VEGETABLE OIL, INC.
- NLM : NEW LEYTE EDIBLE OIL MFG CORP.
- FZG : 不二製油 (張家港) 有限公司
- JFT : 吉林不二蛋白有限公司
- SLF : 山東龍藤不二食品有限公司
- TFP : 天津不二蛋白有限公司
- SXY : 上海旭洋綠色食品有限公司

地域社会とともに

持続可能な社会のために地域社会との共存共栄を目指し、社会貢献活動や地域との交流活動を推進しています。

子どもたちに食の大切さを伝える

■ アグリプログラムへの参加

不二製油は、2010年8月～11月の約4カ月間、農業を体験しながら食べ物の大切さを学ぶ社団法人関西経済連合会主催「アグリプログラム」に参加しました。

これは、農業体験や毎回参加企業が食に関する話をする食育教育、そして地元の食材や参加企業の材料を使用して料理を楽しむプログラムです。

10月17日は、「大豆で健康」をキーワードに、蛋白加工食品カンパニーの社員が講師として参加しました。料理教室では、不二製油の製品を使用したおでんやロールケーキを作りました。

参加した子どもたちからは、「楽しかった」「また来てね」とうれしい言葉をもらいました。



勉強会「大豆で健康」の様子

■ 小学生の工場見学の受け入れ

神戸工場では、2010年12月、神戸市立浜山小学校の30名を迎え工場見学を実施しました。

最初に大豆たん白やたん白加工食品について説明した後、工場見学、そして試食をしてもらいました。

工場見学では、大量に流れてくる「がんも」や、従業員の服装、入場時のルールなどに驚いた表情を浮かべていました。豆腐ハンバーグや枝豆がんもを何度も「おいしい」と言いながら試食していました。

数日後、お礼にと不二製油新聞が送られてきました。新聞名の工夫や、記事の内容もしっかりしたもので、子どもたちの吸収力に感心しました。



不二製油新聞

植林活動支援

■ 阪南の森プロジェクト

2010年11月より不二製油阪南事業所では「大阪府のアドプトフォレスト制度」を利用して、身近な自然を自分たちで守る活動「阪南の森プロジェクト」をスタートしました。場所は、事業所のある地域に貢献したいと、泉佐野市の里山を選びました。管理が行き届かず荒れた里山を、間伐、植樹、下草刈りなどを実施して、豊かな広葉樹林に生まれ変わらせようとする活動です。参加した社員も、環境の大切さを実感しています。もともとマツタケの生える山を再び蘇らせることができるよう、山も人も一緒に育っていくことを願っています。



植林活動に参加したメンバー

■ ボルネオ島の熱帯林再生植林活動に参加

伊藤忠商事が150周年記念事業の一つとして始めたボルネオ島の熱帯林再生および生態系保全活動に、不二製油もグループ会社として参加しています。2010年は、植林活動にも参加し植樹をしてきました。今後も豊かな自然環境を守るため、活動を続けていきます。

voice・ボルネオ島の植林活動に参加

かつては多くのオランウータンが生息していたボルネオ島に初めて行くことになり、胸が弾むと同時に、どれだけ自然が無くなっているのか不安でもありました。

現地では、熱中症の人が出るほど暑いなか、現地労働者と一緒に植樹し、人間の手で植えることの大変さを実感しました。熱帯林を再生するには、大変な労力と時間がかかることを改めて思い知らされました。

パーム農園の開発は、さまざまに議論がなされていますが、現地住民の生活がかかっている大切な仕事でもあります。ビジネスと自然との調和を考えていくことが必要だと痛感しました。

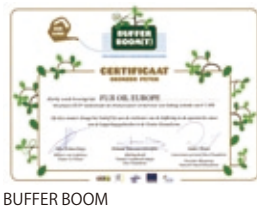


CSR推進室
後藤 愛

地域社会とともに

■ フジオイルヨーロッパ社（ベルギー） ～寄付を通じた植林活動の実施

ベルギー政府が行っているGentの運河周辺の工業地帯の緑化活動に、King Boudoin Foundationを通じて寄付を行っています。約100本の木が植林される予定です。



BUFFER BOOM

地域社会との交流

■ フレイアバディインドタマ社（インドネシア） ～インドネシア地元農民への農業指導

2007年よりカラワン工業団地の活動として、地元農民の自立の支援をしています。団地の敷地内3ヘクタールの丘陵地に農業研修施設を建設し、近隣5カ所の村の農民を対象に、ボゴール農科大学の支援を得

て、農業指導を実施しています。活動開始時の植樹では15,000本を植え付け、今では3メートルになる木もあります。2010年も稲作栽培などのトレーニングが実施され、果樹用、林業用などの苗木も増やしました。



農業指導の様子

■ フジベジタブルオイル社（米国） ～インターンシップの受入れ

学生に会社について理解してもらうことを目的に、インターンシップを受け入れています。2010年は3名の学生を受け入れました。今後も継続的に活動が続けていくことで、地域に貢献した企業を目指したいと考えています。

お取引先への責任

公平・公正な取引を徹底するとともに、お取引先とともに持続可能な発展に努めています。

■ 調達に対する考え方

不二製油は公正で公平な取引のもと、社会的責任をサプライチェーンを通して遂行するため「購買基本方針」を策定しています。中期経営計画2011-2013では、CSR調達の推進を掲げ、安定調達と地球環境に配慮した調達物流の推進を行っています。

購買基本方針（CSR調達）

- 1.法令、社会規範を遵守しISO9001の原料部購買基準及び資材部購買基準に基づいて、中広くお取引先から公平・公正な取引の下、良い品質の原材料を適正な価格で安定的に調達いたします。（公平、公正、遵法・倫理性）
- 2.上記目標を達成するために、お取引先と共同の創造的活動により連携を深め共存・共栄を果たしていきます。（パートナーシップ）
- 3.持続的発展可能な社会の実現への貢献を目指すために地球環境や労働、人権などに配慮した調達を行います。（社会的責任）

■ パートナーとの連携

国内から調達する乳製品などの原料、添加剤、工業薬剤、包装資材など約2000品目を扱う資材部では、持続可能な安定調達のためにサプライチェーンの構築をより強化していきたいと考えています。

voice・製品の安定供給と付加価値の向上のために

弊社は北海道の農協系乳業メーカーです。酪農生産者と不二製油様（ユーザー）との架け橋を担うサプライヤーとして、乳原料の付加価値の向上および製品の安定供給を基本に取り組みをしています。近年ではCO₂削減を目的にアサノ通運様とともにソフトタンクを使用した液状乳製品の輸送を開始しました。また、東日本大震災発生時には生クリーム等の供給について物流網を活用した緊急対応を実施し、北海道からの製品供給が途絶えることはありませんでした。今後は農産物の国際化を見据え、より高付加価値の液状乳製品を中心に、多様な提案を実施していきます。



よつ葉乳業株式会社
代表取締役社長
堀部 一郎 様

■ より良い安定調達のために

海外から調達する植物性油脂、大豆、カカオなどの主原料を扱う原料部では、原料購買基準に則り品質保証書を取得し、品質規格・安全性を評価しています。

毎年技術者同行による現地工場視察を行い、安定調達に向けた積極的な取り組みを行っています。2010年度は、東南アジア、欧州、米国、西アフリカなどで工場視察を行いました。

東日本大震災への対応

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地での救援、復興にお役立ていただくため、義援金、支援物資の提供をいたしました。また、国内外グループ会社では、従業員募金を募り、併せて寄付いたしました。当社グループの主な支援は以下の通りです。

義援金

5,000万円を日本赤十字社を通じて寄付

支援物資

3月18日
栄養補給健康飲料、豆乳飲料45,000本を無償提供
3月31日
栄養補給健康飲料、豆乳飲料45,000本追加で無償提供



支援物資輸送車への積み込み作業



提供した豆乳飲料と栄養補給健康飲料

売上に応じた義援金の寄付（トーラク）

不二製油のグループ会社であるトーラク株式会社では、東日本大震災に被災された皆様のために「神戸プリン」の売上個数に応じて（1個につき1円）義援金として積み立て、日本赤十字社を通じて寄付します。



神戸プリン

voice・東日本大震災・被災地支援ボランティアに参加

2011年5月5日～8日、大阪ボランティア協会主催の被災地支援活動として、宮城県東松島市に行ってきました。2メートル近く津波が押し寄せた家の泥かき全般と、床下にある8センチも積もった黒い粘土質の泥を取り払う作業で、大変根気の必要な作業でした。

震災から2カ月近くが経っていましたが、がれきの山を見ていると復興までにまだまだ時間の掛かることを痛感し、深刻な事態にこの先の不安を覚えました。

今後は、他企業の参加者とともに、この長い復興に対して関西から元気を送るための活動を協同で行っていきたいと考えています。



CSR推進室
前田 正仁

Topics

東日本大震災を受けて

不二製油では今回多くのパートナーの協力により、原材料や包装資材等の調達においては、ほぼ問題なく対応することができました。持続可能な安定調達のために今回対応できていたこと、今後必要な要件が浮き彫りになりました。

災害発生時には、まず取引様の被災状況を確認することが第一ですが、品質保証システムにより初動期に確認し、代替品などへの対応を行うことができました。また、北海道の乳製品を多く使用していますが、一般ルート以外に2年前から別ルートを確立していたことが役に立ちました。包材関連はフィルムサプライヤーの複数購買を実施していたことも安定調達に繋がりました。

今後のサプライチェーンの確立には、1社購買（1拠点購買）の原材料をどうしていくかがキーになります。該当するサプライヤーとよく話し合い、調達体制を作りあげていく予定です。海外グループ会社とも協力して一つひとつの原材料のサプライチェーンを構築していきます。社内の体制としては、救援物資への対策などで生産量増加に対応できていなかったため、需要予測のシステム化も行っていく予定です。

3月11日 東日本大震災発生

サプライチェーンの途絶
原発事故の影響による出荷停止
物流の麻痺
電力不足

供給不足への対応

対応できていた点

原料系被災対象企業の検索
北海道 別ルートの確立
川上を含めた複数社からの購買

今後の課題点

川上まで含めたサプライチェーンの確立
緊急生産増への対応（海外含め）
1社購買先への対応

株主・投資家とともに

株主・投資家の皆様の信頼に応えるために、
タイムリーで適切な情報開示を推進し、双方向コミュニケーションの実現に努めています。

情報開示に関する方針

■ 基本的な考え方

不二製油は、ステークホルダーの皆様から正しい理解と信頼を得るために、2005年制定の「不二製油グループ情報開示規則」に基づき、積極的に適時・適切な情報開示を行うよう最大限努めています。

不二製油グループ 情報開示規則（抜粋）

第1条【総則】

情報管理基本方針、及び、情報管理基本規定の定めに則り、且つ、東京証券取引所の「適時開示規則」、「金融商品取引法」及び「企業内容等の開示に関する内閣府令」に従い、情報開示に関する規則を定める。

第2条【情報開示の基本方針】

投資者への適時、適切な会社情報の開示が健全な証券市場の根幹をなすものである事を十分認識し、常に投資者の視点に立ち、迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を徹底する。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

■ 開かれた株主総会を目指して

不二製油の定時株主総会は、集中日を避けて開催しています。2011年の株主総会には732名の出席を得、株主の皆様から多数の質問をいただきました。総会後には当社役員との対話の場として株主懇親会を開催しています。「不二製油60年の歩み」、「新中期経営計画」についての展示や当社グループの製品紹介、試食コーナーを設け、当社グループへの理解を深めていただいています。

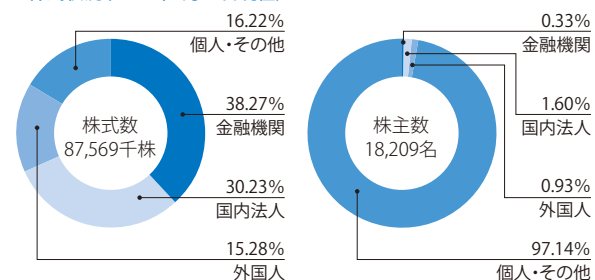


株主総会



株主懇親会

■ 株式状況（2011年3月31日現在）



■ 決算説明会の開催

機関投資家・証券アナリストの皆様を対象に、社長出席の決算説明会を年2回開催しています。決算説明会では業績、事業戦略などの会社情報を正確かつ適切に発信しています。また、多くの株主・投資家の皆様に、公平かつ迅速に情報をお届けするために、決算説明会の各種資料はホームページの「株主・投資家情報」に掲載し情報の提供に努めています。



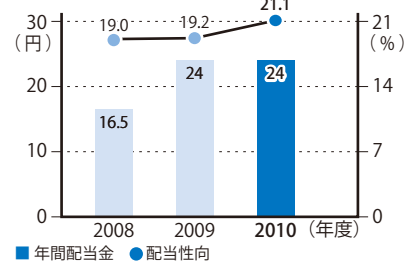
決算説明会

株主利益還元について

■ 配当政策の基本的な考え方

不二製油は、株主への利益還元を経営の最重要課題の一つとして認識しています。長期的な視野から安定的かつ適正な利益配分を行っています。2010年度の年間配当金は24円、配当性向は21.1%でした。

■ 年間配当金・配当性向



voice・アナリストからの声

決算説明会や決算後のスモールミーティングの場をはじめ、私たちの質問に対する迅速で的確な回答には、非常に感謝しています。決算ごとのIR資料も充実していて、実績理解の大きな助けとなっています。要望としては、不二製油の事業内容が多岐にわたることから、事業ごとの説明会や施設見学会の開催があれば、事業を理解する上で非常に有意義であると考えています。



大和証券キャピタル・マーケットズ株式会社
田中 聡 様

コーポレート・ガバナンス

透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、社会から信頼される企業であるため、
コーポレート・ガバナンスの充実と内部統制システムの強化に努めています。

基本的な考え方

不二製油は、経営の効率化、意思決定の迅速化、タイムリーな情報開示、組織体制の整備、コンプライアンスの強化により、透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、株主価値を継続的に高めることをコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方としています。

コーポレート・ガバナンス推進体制

不二製油では、ガバナンスの基本として監査役制度を採用しています。会社の機関として取締役会、経営会議、監査役会を設置しており、さらに内部統制の仕組みを整備しています。また、機動的な経営体制の構築や事業年度の経営責任の明確化を目的に、取締役任期を1年としています。

■ 取締役会

取締役会は毎月の定例取締役会のほか、必要に応じ臨時取締役会を適宜開催しています。法令に定められた事項および重要事項の審議、決議を行うとともに取締役の業務執行状況を監督しています。また、経営の監視・監督の強化、事業運営への助言をいただくために社外取締役を選任しています。

■ 経営会議

経営会議は、原則月2回開催され、取締役会決議事項をはじめとする経営に関する重要な意思決定事項につ

いて検討・審議しています。ガバナンスの観点から常勤監査役も1名出席しています。

経営の監査機能

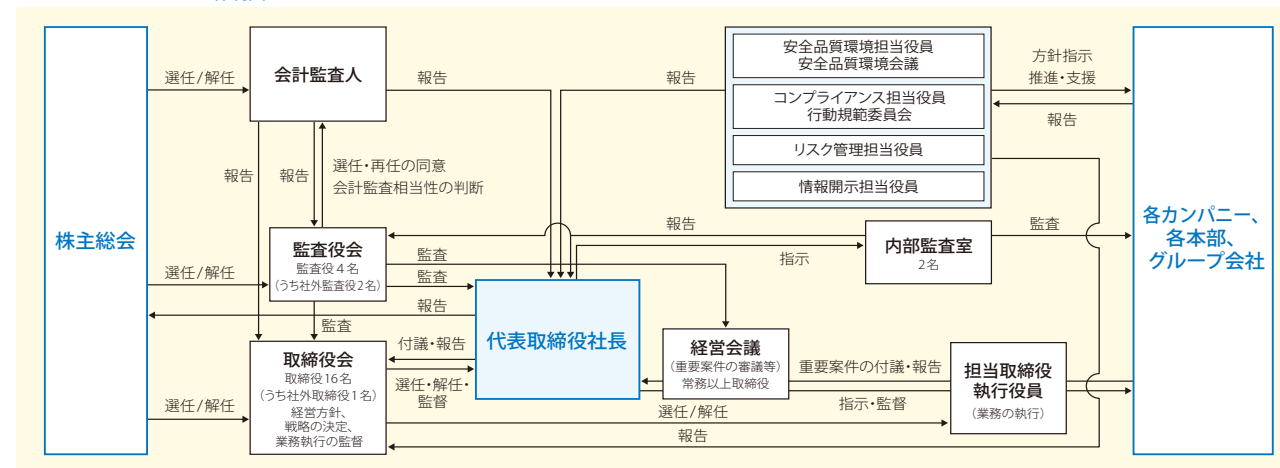
■ 監査役会

監査役会は4名の監査役で構成されており、うち2名が社外監査役です。監査役会は監査方針および監査計画を協議決定し、監査に関する重要な事項等の報告・決議・決定を行っています。監査役は取締役会だけでなく、社内の重要な会議に常時出席するほか、代表取締役との意見交換、各カンパニーや本部へのヒアリング、主要な事業所・工場および子会社への往査、会計監査人、内部監査室との連携などにより、取締役の執行状況を監査し、経営監視機能を果たしています。

内部統制システムの整備

不二製油グループは、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、関連法規の遵守、財産の保全、リスク管理を徹底するため、内部統制システム・プロセスの構築、整備を行っています。役員・従業員の適正な職務遂行と会社業務の適正を確保するため、取締役会において「内部統制システムの整備に関する基本方針」を決議しています。また、財務報告の信頼性を確保するため、2008年度より金融商品取引法に基づき、財務報告にかかわる内部統制の有効性の評価に関する「内部統制報告書」を作成・提出しています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンスの推進

企業市民として法令遵守はもちろんのこと、ステークホルダーの期待にお応えするためにコンプライアンスの推進と強化に努めています。

コンプライアンスの基本的な考え方

不二製油グループは、食の素材メーカーとして「安全・品質・環境」を経営の前提に、法令、定款、社内諸規定を遵守するにとどまらず、株主、取引先、お客様をはじめとするステークホルダーの期待に応えることをコンプライアンスの基本として活動しています。具体的には、2003年2月に制定した「不二製油グループ行動規範」の周知徹底を図るほか、経営トップのコミットメントとして担当役員を置き、不二製油の目指すコンプライアンスの推進に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制

■ 行動規範委員会

「不二製油グループ行動規範」に基づき、グループ全体の行動規範に関する重要な事項を審議し、社長及び取締役会に具申を行う常設の組織として「行動規範委員会」を設置しています。さらにグループ会社を含む当社のすべての部門における行動規範にかかわる事象をモニタリングする行動規範推進委員を任命し、四半期に1回の頻度で「行動規範推進委員会」を開催し、コンプライアンス違反事例の有無、コンプライアンス違反のリスクの洗い出し、改善策の実施状況報告等を行っています。

2010年には、同年1月の独禁法改正を受け、独禁法コンプライアンスに関する資料を作成し関係部門への配布や役員研修の実施など、法令遵守の周知徹底を図りました。

■ 内部通報制度

「内部通報規程」を策定し、各種法令や行動規範などに違反するような行為があり、職制ラインを通じて是正が困難な場合に相談・通報を受け付ける「内部通報制度」を設けています。「内部通報制度」は、不二製油本体の従業員のみなならず、不二製油グループ会社の従業員も対象としています。社内窓口は行動規範委員会、社外窓口は外部の弁護士事務所が担当しています。2010年度は、4件の通報、2件の相談がありました。

通報者のプライバシー保護に配慮し、相談・通報内容については行動規範委員会が十分な調査を行い、適

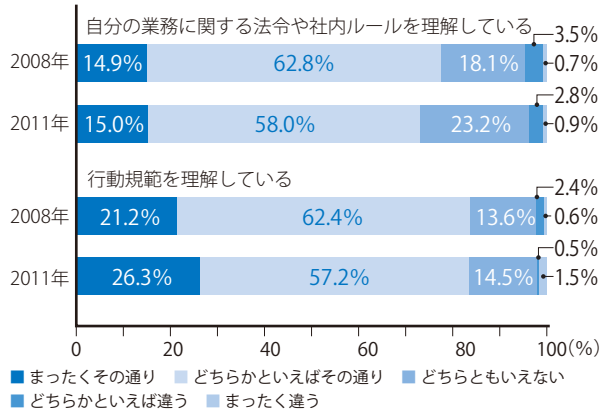
切に措置しています。

■ 通報・相談件数 (件)			
2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
6	2	7	6

浸透・定着に向けた取り組み

行動規範の周知徹底を図り企業風土への定着のため、役員研修・人事研修・部門研修などを通じて啓発を行っています。コンプライアンスの浸透状況、個別課題を把握するため2011年5月に当社グループ社員2,057名を対象に社員意識調査を実施しました。定着状況と課題を把握し、今後の取り組み改善につなげていきます。

■コンプライアンスに対する社員意識調査結果



■ グループ会社での取り組み

トーラクでは、従業員にむけて毎年テーマを決め、社内研修を行っています。

2010年度は管理職44名を対象に「労務管理における管理職の役割とコンプライアンス」について外部講師を招き実施しました。部下を持つ管理職の立場として、必要な職務や役割について聴講し、その後個人ワーク、グループワーク、発表を行いました。



社内研修の様子

リスクマネジメントの強化

事業を持続的に運営していくために、リスクの把握と全社的なリスクマネジメント体制の構築に取り組んでいます。

リスクマネジメントの基本的な考え方

不二製油は、グローバルに事業を展開することで多様化するリスクを最小化するために、2006年制定の「不二製油グループ リスク・クライシス管理規程」に基づき、グループ全体で適切な管理を進めるとともに、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。

不二製油グループ リスク・クライシス管理規程 (抜粋)

第1条【総則】

本規程の目的は、企業活動に内在する各種リスク及びクライシス（リスクの顕在化）に適切且つ効果的に対処するために、その管理責任を定め、不二製油グループの経営資源の保全及び社会的責任を果たすことにある。

第2条【リスク・クライシス管理の基本】

リスク・クライシス管理の基本は、次のように要約できる。不二製油グループの全ての役員・従業員は、常にこれを留意しなければならない。

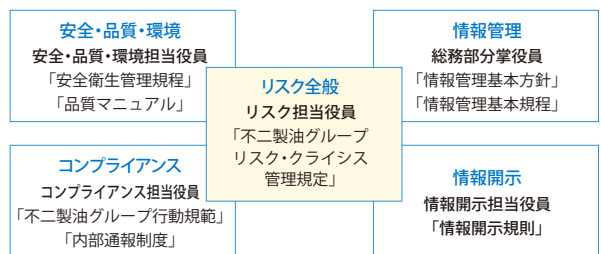
- 業務遂行上に内在する各種リスク（補則参照）を洗い出し、それが現実のクライシスとなる確率や、発生した場合の社会や不二製油グループに及ぼす影響度を勘案して、効果的且つ合理的な対策を講じ継続的改善を行う。
- クライシスが発生した場合に備え、その損害や被害を最小限に止めるとともに早急に復旧するための手順や対策を平素から立案し継続的改善に努める。
- クライシス発生時の正確で迅速な情報収集及び伝達に加え、社外に対する情報開示の重要性を十分認識し、平素より準備を怠らない。

リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント管理については、職制上の管理責任に加え、組織の枠組みを越えてグループ全体を包括して取り組む必要性がある分野に関して、担当役員を定め実施にあたることとしています。

リスク管理担当役員は、リスク・クライシス管理が適切に遂行され、組織上不都合がないかモニターし、必要に応じて関係部門への改善指導や助言を行っています。またグループ各社へのリスク・クライシス管理への取り組みを促進し、継続的改善を図っています。

事業年度末には、各部門、グループ会社のレビューを取りまとめ取締役会に報告しています。



2010年度は①労務 ②原料・資材 ③市場 ④生産・物流・品質 ⑤与信 ⑥事件・事故・災害 ⑦設備 ⑧知財・情報・法令 ⑨カントリーリスク ⑩税務・会計 ⑪資金調達 ⑫賠償・保険 ⑬情報管理の13項目のリスクレビューが行われ、事業活動に潜在するリスクを洗い出し、分析評価を行い措置・対策を講じています。

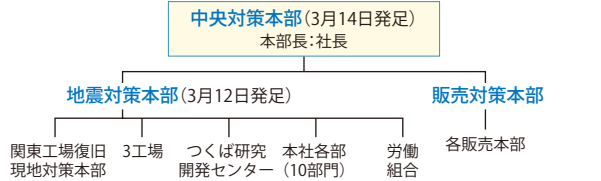
クライシスマネジメント体制の強化

■ 大規模災害

東日本大震災を受けての対応

2011年3月11日の東日本大震災発生後、直ちに社長を本部長とする対策本部を設置、設備補修や体制の整備を実施しました。幸い従業員への被害はなく、千葉工場、たん白食品つくば工場、関東工場では、建物・設備の一部に被害が発生し操業を一時停止しました。その後、復旧工事が進み順次操業を再開し、4月20日に復旧が完了しました。

■対策本部組織図



■ BCP(事業継続計画)策定に向けて

東日本大震災を受けて、現在、阪南事業所安全衛生管理規定／地震対応要領の見直しを行っており、2011年度は不二製油BCPの完成に向けて取り組んでいます。

■ 情報システムにおけるBCP策定

情報システム部では、5年前から大規模災害を想定してIT基盤の脆弱部分に対してBCPの策定を進めています。2009年度までに、自社内サーバーの耐震強化、メールサーバーのアウトソーシング、PHSシステムのバックアップ体制などを進めてきました。2010年度は、全社ネットワークの2重化と国内全事業所へのTV会議の設置（2010年度は関東工場、つくば工場、石川サニーフーズ（株）設置）が完了しました。今回の震災時では、ネットワークの2重化によりネットワークの切断が免れたことと、TV会議システムにより情報の共有が円滑に進みました。

第三者意見



神戸大学経営学研究科
教授 三品 和広氏

不二製油のCSRレポート2010には、第三者意見が付与されていませんでした。そのレポートが発刊されて以来、CSR推進室のメンバーと重ねてきた対話に基づいて、ここにCSRレポート2011に対する第三者意見を記述いたします。

特に評価したい点

今年度のレポートで注目したいのは、4ページから5ページに見開きで登場する主要製品の紹介と、12ページから19ページにわたる特集のコーナーです。不二製油の事業の大半は中間素材の供給に徹するものなので、消費者や投資家が不二製油の存在を実感する機会は著しく限られています。その点を踏まえ、社業を可視化するようアドバイスしてきましたが、不二製油は上述の企画で見事にできてくれました。これで、食品業界に不慣れな読者にとっても、不二製油という会社が少しは身近に感じられるようになったと思います。

それ以上に大切なのは、不二製油が「パームと大豆のスペシャリスト」として生きる道が浮き彫りになったことにより、それら植物素材の力をフルに引き出すところに社会的責任を担う自覚が伝わってくる点ではないでしょうか。事業を通して社会に貢献することがCSRの第一義であるとすれば、今年度のレポートはCSRの根幹に関わる部分で大きな前進を刻んだと言ってよいかと思います。

目立たない部分では、CSRの基本的な考え方について進化が見られます。それはレポートの8ページから9ページにかけて象徴的に現れていますが、昨年度のレポートに比べると「人権」のような強い言葉が登場し、全体として歯切れがよくなっていることに気づきます。これは、不二製油がCSRと真摯に向き合ってきた証と解釈してよいでしょう。

今後に期待したい点

CSRレポート2011では、21ページから43ページまでが「2010年活動報告」に当てられています。が「社会貢献」以外の部分では考え方や方針の説明に重きが置かれているため、活動の内容が手に取るように伝わってくるとは言い難い印象が残ります。今年度のレポートでは、10ページから11ページにわたって活動計画を明記しているので、次年度

以降は、項目別に計画の実施状況が可視化されたレポートを期待したいところです。計画を立てるだけでなく、事後の点検を欠かさないことにより、不二製油が強靱の度合いを増すことは間違いないと考えるからです。

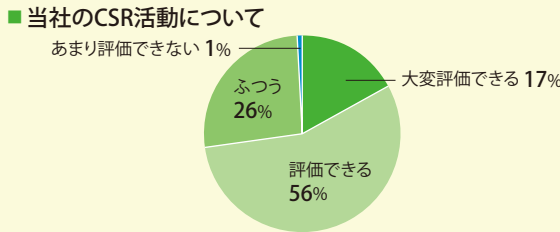
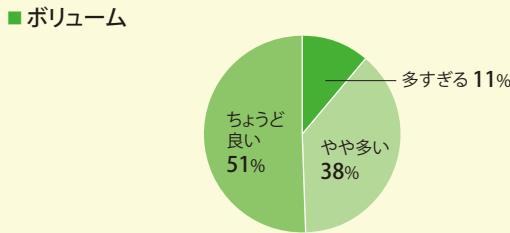
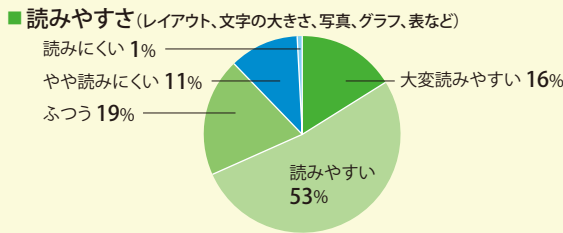
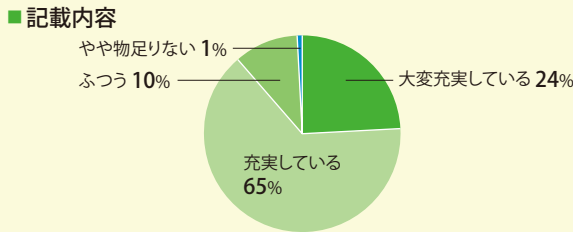
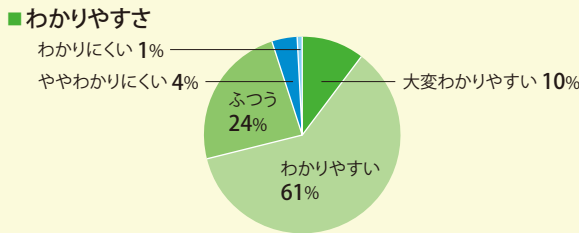
次に期待したいのは、「質」に対する考え方の整理です。2011年度からスタートした不二製油の中期経営計画では標題に「Quality」を掲げており、質を切り口として国内事業基盤のレベルアップを目指す方針が明記されています。そうしないと、もうひとつの標題である「Global」を追求するなかで、国内事業の存在意義が不透明になりかねないからでしょう。顧客の期待を裏切ることなく社会的責任を果たすためには、たとえば製品に異物が混入してはいけません。しかし、このような守りの側面だけでなく、質には顧客の期待を上回るという攻めの側面も共存します。CSRを求心力の中心として、国内にとどまる従業員一同で不二製油は何をもって質と言うのかを突き詰めて考えていただきたいと願っています。

最後に、より大きな課題にも言及しておきたいと思います。不二製油がパームと大豆、そしてカカオを事業の基盤に据えたうえで、その有効利用に関して社会的責任を担おうとする決意自体は素晴らしいことこのうえありません。しかしながら、この類の農産物には、生産に携わる人々、さらには流通に携わる人々の「人権」や、生産地の「環境」が十分に尊重されているか否かが疑わしいとする向きもあります。そういう可能性に対して、取引関係にある企業が無関心を装うことをCSRの概念は許しません。今年度のレポートでは、現地を視察した旨が記されているものの、誰が視察に出向き、現地でどのような現実を目の当たりにしたのかについては、記述らしい記述が欠けています。次年度以降のレポートでは、事業の「源流」に対して不二製油が関心のまなざしを向けている姿勢を明確にしてほしいところです。

「不二製油CSRレポート2010」アンケート集計結果

「不二製油CSRレポート2010」に同封したアンケートを通じ、社内外のステークホルダーの方々からさまざまなご意見・ご感想をいただきました。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後も皆様とのコミュニケーションを図りながら、より良いレポートづくりに活かしていきたいと考えています。

本レポートをお読みいただいた感想をお聞かせください。

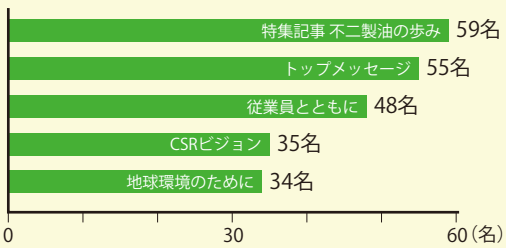


編集後記

私たちは「CSRは経営そのもの」として、本業によるCSR活動を進めています。今年初めて掲げた「CSRビジョン・CSR活動方針」は、それを見える化したものです。また、当社の特徴をご理解いただけるよう、特集にパーム事業と大豆事業の紹介をしています。本レポートを読んでいただくことでステークホルダーの皆様が不二製油をご理解いただき、双方向のコミュニケーションを通して、「二つとない、」価値ある企業を目指したいと考えています。皆様のご意見、ご要望をお待ちしています。

CSR推進室

本レポートで関心をもたれた項目（上位5位）



主なご意見・ご感想と2011年版での改善点

不二製油という会社が何を売っているのか全体像がわかりにくい。

▶▶ 事業概要をイラストでまとめました。 [P04-05](#)

▶▶ 特集ページでは、二つの事業について詳しく紹介しています。 [P12-19](#)

ステークホルダーとの関係をわかりやすくするために関係図を入れてほしい。

▶▶ 不二製油グループとステークホルダーとの関わり、目指す姿を図式化しました。 [P08](#)

具体的目標について記載がほしい。

▶▶ 不二製油CSR課題と取り組みを、CSR活動方針に沿ってまとめました。 [P10-11](#)

不二製油グループの食に関する取り組みについて詳しく知りたい。

▶▶ クローズアップページ「高級チョコレートがお客様の手に届くまで」にて、不二製油の食への取り組みをご紹介します。 [P22-24](#)

コーポレートメッセージを実践できるよう、常にCSRに関する情報発信、社員の意識づけが重要だと思う。

▶▶ 「不二製油の社会的責任について考える会」の開催や、部門研修などでの啓発でCSRの社内浸透に取り組んでいます。 [P29](#)

表紙の説明



大豆たん白食品

「大豆たん白を最終製品にまで高め、市場で開花させたい」。それが、事業を開始した当初からの目標。現在では、学校給食や老人介護施設、ファミリーレストランなど、身近なところで食生活を支えています。



チョコレート

高級チョコレート「クーベルチュール」。風味にこだわり、より美味しい原料豆、より良い製造技術の追求を長年続けています。油脂技術を利用して、パン・アイス用コーティングチョコレート、含水チョコレートなど、機能を備えた製品や、多彩なカラーチョコなどチョコレート製品全般を幅広く展開しています。



パーム油

不二製油がヤシ油と共に独自の進路を切り拓くきっかけとなった南方系原料油脂。現在パーム油は世界の植物油生産量で大豆油を抜いて No.1 の生産量となっています。不二製油では分別技術などで様々な融点・物性の油脂製品を開発し世界に展開しています。



冷凍パイ生地

ヨーロッパまたはオセアニア産のバターを使用した冷凍パイ生地。焼き上げたパイは、香ばしいバター風味となります。シンガポール所在の WOODLANDS SUNNY FOODS の製品です。



家庭用豆乳製品

健康をサポートする、機能性の高い大豆関連商品。特定保健用食品も多く揃え、ソヤファームブランドとして、健康、美容の観点から「大豆で、いいこと。」を提案し続けています。



マーガリン

油脂加工技術を応用して、多種多様なパン製品、菓子製品、加工食品に対応できるマーガリンを開発・販売しています。パン・洋菓子向けにはお客様の製品開発のヒントとなる提案営業を積極的に行っています。



水溶性大豆多糖類

独自の技術を駆使し、大豆より抽出・精製した水溶性大豆多糖類です。大豆由来の食物繊維で、食品素材として食物繊維強化用途として使用できると共に、乳化性、分散安定剤及び皮膚性・接着性などの機能もあり、食品分野をはじめ、工業製品分野の用途へも応用されています。



チョコレート用油脂

油脂の分別・硬化、エステル交換など様々な技術により、チョコレートを季節、用途に応じてあらゆる場で美味しく利用できるチョコレート油脂を提供しています。板チョコからパン・ドーナツ、アイスクリーム用コーティングチョコレート製品など様々な場でチョコレートの利用範囲を広げてきました。



粉末状大豆たん白

日本で初めて、分離大豆たん白をゲル状にする技術に成功した不二製油。大豆を高度に加工した大豆たん白素材は、食品の品質向上や食感の演出に欠かせない機能を発揮しています。



ホイップクリーム (P.02)

高度な乳化技術、無菌化の技術により従来の生クリームの欠点を補い安定した機能を持つ多彩なクリーム製品。無菌・滅菌充填技術により、クリームのロングライフ化実現にて、ホイップクリームを利用した美味しいケーキを日本全国に広めることになりました。

二つとない、をつくる。

 **不二製油**



この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。

お問い合わせ先

不二製油株式会社 CSR 推進室

〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町 1 番地
TEL 072-463-1295 FAX 072-463-1659
e-mail csr@so.fujioil.co.jp